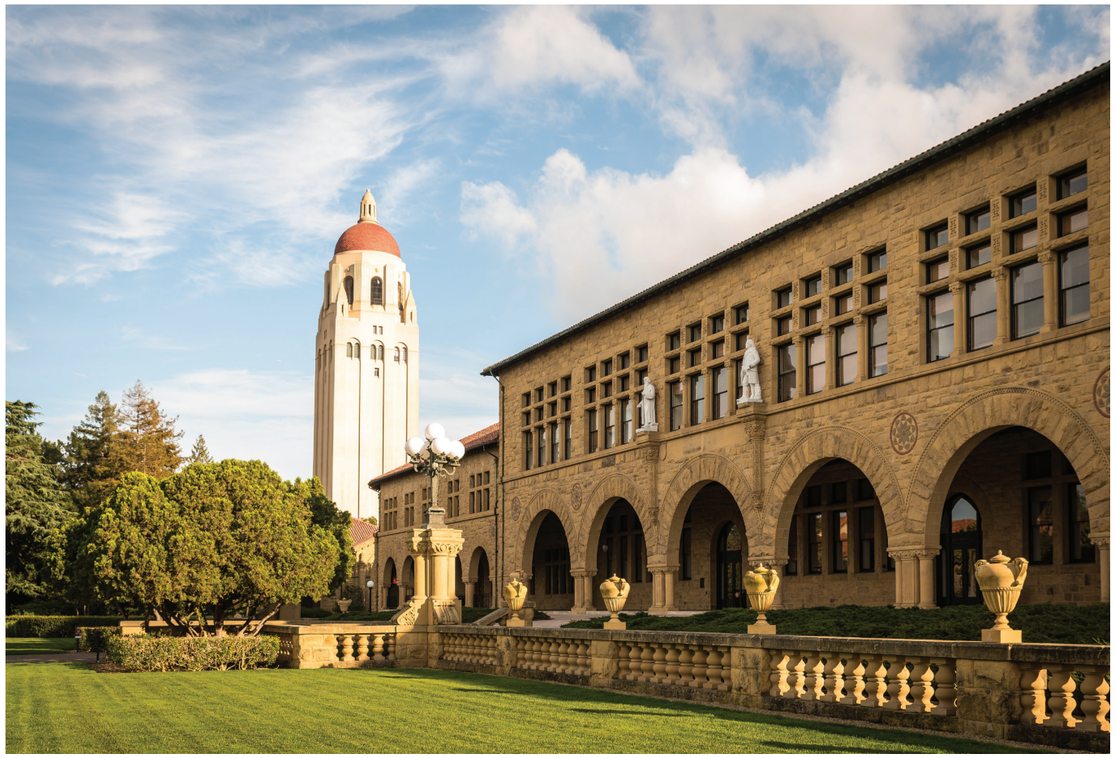


「世界中から進路を選ぶ」を
スタンダードに

海外進学という選択肢を志望する中高生へ
グローバル進路実現をサポートします。

Route H　GLOBAL LEARNING CENTER　ベネッセ海外留学センター

第１回 日本科学振興協会

総会・キックオフミーティング

日本の科学を、もっと元気に！

プログラム集
年次報告書

会期　2022年
6月18日(土)～24日(金)

6月18日(土)～19日(日)：ハイブリッド開催
6月20日(月)～24日(金)：オンライン開催

会場
東京国際交流館プラザ平成
〒135-8630 東京都江東区青海2-2-1

主催
特定非営利活動法人　日本科学振興協会

事務局
日本科学振興協会　第１回総会・キックオフミーティング　運営事務局
〒532-0003 大阪市淀川区宮原 2-14-14 新大阪グランドビル 6 階
株式会社 エー・イー企画　大阪オフィス内
TEL: 06-6350-7247 FAX: 06-6350-7164
E-mail: jaas_secretariat@aeplan.co.jp

HP

20年間、育ててくれて
ありがとう。

日本の研究者の皆様に支えられ、
エディテージは20周年を迎えました。

「英語ができるなら、私の論文を校正してくれないか？」
ある一人の日本人研究者のひとことをきっかけに、
2003年にエディテージは生まれました。

あれから20年。お客様からの「論文が通ったよ！」という喜びの声、
こんなサービスが欲しい！というアイディア、温かい励ましや、
時にはお叱りを受けながら、エディテージは国際的な研究者支援の
リーディングブランドへと成長することができました。

唯一無二の研究で世界を変えていく、研究者の皆様を微力ながら
支えられるこの仕事に、心からの感謝と誇りを抱いて迎えた 20 年。
さらに深く広く、論文出版を超えた活動を支えられる存在になるため、
エディテージは次のステージへ進んでいきます。



エディテージのアイディアを
くださった先生

一番最初のお客様に
なってくださった先生

若かりし頃の創業者
Abhishek Goel

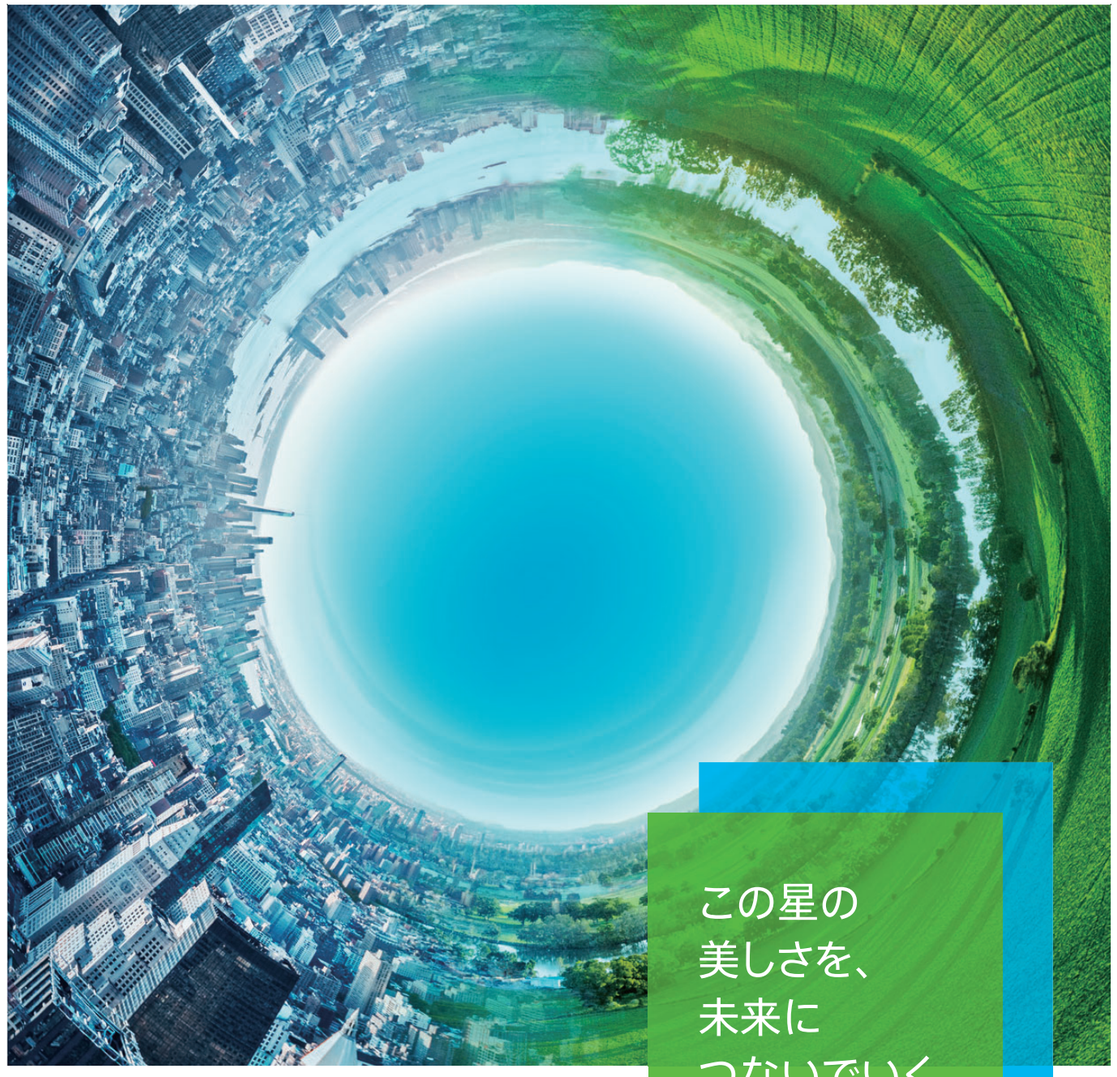
エディテージの日本人
スタッフ第一号

1300 以上の研究分野に特化した
論文の英文校正 | 学術翻訳 | 論文投稿支援

0120-502-987 | submissions@editage.com
www.editage.jp エディテージ

editage publish & flourish 20 years

エディテージはカクタス・コミュニケーションズ(株)のサービスブランドです。
カクタス・コミュニケーションズ株式会社
〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-4-1TUG-Iビル4階



この星の
美しさを、
未来に
つないでいく。

半導体製造装置で、
デジタル×グリーンの実現へ。

あらゆる産業がデジタル化し、同時に脱炭素へと向かう現代。
その基盤を支える半導体の高性能化と低消費電力化は、重要な課題です。
東京エレクトロンは、環境負荷を抑える最先端のテクノロジーで、
デジタル化とグリーン化の両立による持続可能な社会を目指します。

TEL TOKYO ELECTRON

目　次

開催概要…… 2

ご挨拶…… 3

日程表…… 4

プログラム…… 6

現地開催登壇者プロフィール…… 31

2021年度 年次報告書 …… 45

- ●代表・副代表のあいさつ …… 47
- ●法人設立までの流れ …… 48
- ●活動理念 …… 49
- ●活動内容 …… 49
- ●JAASの活動 …… 50
- ●入会・継続案内 …… 58
- ●協賛企業・団体 …… 59

スポンサー…… 61

新型コロナウイルス感染症感染対策について…… 62

開催概要

1. 会議名称

日本科学振興協会 第1回総会・キックオフミーティング

2. 主　　催

特定非営利活動法人日本科学振興協会（JAAS）

3. 会　　期

2022年6月18日（土）～24日（金）

※6月18日（土）～19日（日）：ハイブリッド開催

※6月20日（月）～24日（金）：オンライン開催

4. 会　　場

東京国際交流館プラザ平成（6月18～19日のみ）

〒135-8630 東京都江東区青海2－2－1

5. 実行委員会

委員長　北原 秀治（東京女子医科大学）

委　員　太田 航（横浜市立大学）、諏訪 智巳（三菱電機株式会社）、野崎 光太（株式会社Srust）、林 愛子（株式会社サイエンスデザイン）、吉田 智美（筑波大学）

6. プログラム委員会

委員長　宮川 剛（藤田医科大学）

委　員　小野 悠（豊橋技術科学大学）、池田 和隆（東京都医学総合研究所）、江端 新吾（東京工業大学）、大竹 裕香（九州大学）、加納 愛（カクタス・コミュニケーションズ株式会社）、木村 宏（東京工業大学/外部委員）、近藤 滋（大阪大学）、柴藤 亮介（アカデミスト株式会社）、坂内 博子（早稲田大学）、藤田 信太郎（株式会社日テレアックスオン）、宮野 公樹（京都大学）、三輪 秀樹（国立精神・神経医療研究センター）、森 章（東京大学）

7. 後援（5月27日現在）

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）

独立行政法人日本学術振興会（JSPS）

日本学術会議（SCJ）

文部科学省

8. 運営事務局

〒532-0003　大阪市淀川区宮原2-14-14　新大阪グランドビル6階

株式会社 エー・イー企画　大阪オフィス内

TEL: 06-6350-7247　FAX: 06-6350-7164

E-mail: jaas_secretariat@aeplan.co.jp

ご挨拶

このたびは、日本科学振興協会(Japanese Association for the Advancement of Science; JAAS)の第一回総会・キックオフミーティングにご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

JAASは、その前身の日本版AAAS設立準備委員会の発足時より、
「日本の科学をもっと元気に！」
をキャッチフレーズとして活動しています。これを前面に掲げている背景には、裏を返すと、日本の科学はあまり元気とはいえない、むしろ瀕死の状態に近い、というような認識があります。どうしてそのような状態になってしまったのか、その理由についての喧々諤々の議論を進めるなかで、「対話が足りないから」であろうというコンセンサスに至りました。JAASが分野、組織、職種・職階、国籍・民族、世代などの種々の垣根を超えた「対話と協働」の場を創出することをミッションとして掲げている背景にはそのような経緯があります。

JAASは、対話と協働の場の一つとして科学の祭典となるような年会を開催することを具体的な活動の柱の一つとして想定していますが、NPO法人としての会の発足から間もなく、急遽、このミーティングの開催が決まった関係上、十分な準備期間がとれませんでした。そこで今回は、どのようにして「対話と協働」の場を創っていくべきかを考えることを中心とした小規模の会を行ってみようということになりました。来年以降は、多くの一般市民の方々の参加も想定する大規模ミーティングを行うことを想定・期待しつつ、まずは、試しに有志の関係者、科学技術政策に関わる方々、メディアの方々などを中心とした「作戦会議」を行ってみようということです。

講演、シンポジウム、ワークショップでは、日本の科学を元気にするために必要であろういくつかのポイント(イノベーションが産まれやすい場とはどういうものなのか、誰もが科学を楽しみ科学に参加できるようにするにはどうすればよいか、元気に科学に集中できる環境とはどのようなものか等)について話題提供をしていただきつつ、対話を行います。

ポスターセッションでは、高校生の研究発表から、最先端の研究グループの研究紹介、科学の仕組みに関する提案など、分野横断的で多種多様な発表が予定されています。
普段は会って話す機会がないであろう多様な立場の参加者との対話を通じて、科学に対する熱い思いを共有しつつ、日本の科学を元気にするにはどうすればよいのかを議論していただけますと幸いです。

20日から24日まではオンラインでの開催となりますが、18日、19日はJAASでは初の対面を中心としたハイブリッド形式の大規模ミーティングとなります。対面で人と人がリアルに出会うことの力も大いに活用しつつ、日本の科学の凋落をくい止め、上向きの上昇気流に乗せるための作戦を、みなさんで一緒に考えましょう。

日本科学振興協会
第1回総会・キックオフミーティング



実行委員会・委員長
北原 秀治



プログラム委員会・委員長
宮川 剛

タイムスケジュール

6/18（土）

online配信

12:30-13:20 ランチョンセミナー1
好奇心を原動力とした研究
後援・共催：藤田医科大学/駐日イスラエル大使館 P.6

13:30-14:30 開会式 P.6

14:40-17:00 シンポジウム
日本の科学をもっと元気に：イノベーションを産む場を創ろう！ P.7

17:15-18:45 ワークショップ
日本の科学をもっと元気に：科学を楽しむ場を創ろう！ P.7

現地開催（交流会議場）

現地開催（メディアホール）

11:00-12:30 ポスターセッション1
発表・討論（奇数番号） P.6

17:00-18:30 ポスターセッション2
自由討論 P.7

6/19（日）

online配信

10:30-12:00 パネルディスカッション1
日本の科学をもっと元気に：誰もが科学する社会を創ろう！ P.8

12:10-13:00 ランチョンセミナー2
日本の科学をオープンに！
共催：ワイリー・パブリッシング・ジャパン株式会社 P.8

13:10-14:10 基調講演
柳沢 正史 P.9

14:10-16:10 パネルディスカッション2
日本の科学をもっと元気に：元気に科学する場を創ろう！ P.9

16:10-16:40 全体討議 P.9

16:40-16:50 オンラインプログラムの案内 P.9

現地開催（交流会議場）

現地開催（メディアホール）

9:00-10:30 ポスターセッション3
発表・討論（偶数番号） P.8

14:10-15:40 ポスターセッション4
自由討論 P.9

6/20（月）

online配信

Room 1

12:00-14:00 共催シンポジウム1
計量テキスト分析と社会科学
共催：九州大学アジアオセアニア研究教育機構（Q-AOS） P.10

14:30-16:30 ワークショップ1※
JAAS環境カフェ（対話イベント） P.10

16:30-18:30 ワークショップ3
日本のサイエンス・コミュニケーションのリアルな現在地を、新参キャスターが赤裸々に聞く！ P.11

Room 2

14:30-16:30 ワークショップ2
「科学とはなにか」を改めて問う〜異なる「科学」への視点を対話する〜 P.10

19:00-21:00 共催シンポジウム2
海外研究留学で日本の科学を元気にする！―高校生と日本人留学生・研究者の対話
共催：ベネッセ Route H / Global Learning Center P.11

Room 3

14:30-16:30 ポスターセッション5
自由討論 P.11

※JAAS ワーキンググループ紹介企画

	06/21（火）		6/22（水）			6/23（木）			6/24（金）
	online配信		online配信			online配信			online配信
	Room 1	Room 2	Room 1	Room 2	Room 3	Room 1	Room 2	Room 3	Room 1
9:00									
30									
10:00									
30									
11:00			11:00-13:00 共催 シンポジウム6 シーズをどうやって実際に事業化するか？/スタートアップエコシステム 共催：デロイトトーマツサイエンスアンドテクノロジー P.14			11:00-13:00 共催 シンポジウム8 カーボンニュートラル/林業イノベーション 共催：デロイトトーマツサイエンスアンドテクノロジー P.18			
30									
12:00									
30									
13:00				13:00-15:00 ワークショップ5 持続可能な研究環境に関する提言 P.15	13:00-15:00 ポスターセッション6 自由討論 P.15		13:00-15:00 ワークショップ9※ 文系大学院修了者のキャリアパスを考える P.19	13:00-15:00 ポスターセッション9 自由討論 P.19	
30									
14:00									
30									
15:00		15:00-17:00 ワークショップ4※ 博士学生のためのキャリアガイダンス　～アカデミアでも企業でもどこでも可能性は無限大～ P.12		15:00-17:00 ワークショップ6 科学の場に参加する"ハードル"を取り除くには～全ての人が科学を楽しむ場を作るために～ P.15	15:00-17:00 ポスターセッション7 自由討論 P.16	15:00-17:00 共催 シンポジウム9 研究公正の推進のために必要な取り組みとは？研究者、行政、社会の取り組み 共催：JST-RISTEX「科学技術イノベーション政策のための科学 研究開発プログラム」 P.19			
30									
16:00									
30									
17:00	17:00-19:00 共催 シンポジウム4 対話でつむぐ、未来社会～科学技術を社会変革につなげるには～ 共催：科学技術振興機構（JST） P.12		17:00-19:00 共催 シンポジウム7 エネルギーの国際政治経済 共催：九州大学エネルギー研究開発機構（Q-PIT） P.16			17:00-19:00 共催 シンポジウム10 Easing the path towards open science for researchers 共催：シュプリンガー・ネイチャー P.20			
30									
18:00									
30									
19:00	19:00-21:00 共催 シンポジウム5 サイエンスコミュニケーションの本来の目的は何であろうか？語り手には十分な熱意があるのであろうか？また受け手はそこから何を得られているのだろうか？ 共催：カクタス・コミュニケーションズ株式会社 P.13		19:00-21:00 ワークショップ7※ JAASで社会連携は可能か？ P.16	19:00-21:00 ワークショップ8/JAAS若手企画セッション 私たちは"科学"をどう捉えていくべきか～豊かな社会を目指して～ P.17	19:00-21:00 ポスターセッション8 自由討論 P.17	19:00-20:00 ワークショップ11 科学・研究・大学のことを何でも聞いてみよう P.21 20:00-21:00 ワークショップ12※ 広報・アウトリーチWG紹介セッション「伝わる」文章を書こう！ P.21	19:00-21:00 ワークショップ10 異分野融合研究のためのファシリテーション P.20	19:00-21:00 ポスターセッション10 自由討論 P.21	19:00-20:30 第一回JAAS総会 P.22 20:30 閉会式 P.22
30									
20:00									
30									
21:00									

※ JAAS ワーキンググループ紹介企画

6月18日(土)　プログラム

ポスターセッション1　発表・討論(奇数番号)　11:00-12:30

ランチョンセミナー1　好奇心を原動力とした研究　12:30-13:20

座長　宮川 剛（藤田医科大学 研究推進本部 総合医科学研究部門）

講演　Daniel Zajfman（ワイツマン科学研究所，Chair of The Academic Board, The Israel Science Foundation）

後援・共催　藤田医科大学/駐日イスラエル大使館

概要　科学研究が究極的に目指すものは人類の福祉の向上ですが、その推進のためにはどのような戦略をとり、どのような投資を行えばよいのでしょうか？産業への研究のインパクトについての指標で世界の大学・研究機関の中で6位とされ、ライセンス契約に基づく製品の売上が年間350億ドルにものぼるワイツマン科学研究所の前所長のダニエル・ザイフマン教授は、科学の特定の分野やトピックでなく、好奇心と情熱を持つ科学者に投資することの重要性を主張されています。本講演では、レントゲン、GPS、電気などの私達の生活に欠かせない科学技術がどのように生まれてきたのかのエピソードも交えつつ、世界トップレベルの研究所を所長として運営されてきたご経験に基づき、科学に資金をどのように投資すればよいのかについての戦略をわかりやすくご紹介いただきます。

開会式　13:30-14:30

代表理事挨拶　小野 悠（豊橋技術科学大学 大学院工学研究科）
馬場 基彰（京都大学白眉センター）

キックオフミーティング説明
北原 秀治（第1回総会・キックオフミーティング実行委員長，
東京女子医科大学先端生命医科学研究所）

祝辞　梶田 隆章（東京大学 宇宙線研究所，日本版AAAS設立準備委員会 名誉委員長）
原山 優子（日本科学振興協会(JAAS)）
船田 元（衆議院議員，自民党 科学技術基本問題小委員会）

ビデオメッセージ　阿形 清和（基礎生物学研究所 所長）
磯谷 桂介（中部大学 副学長）
隠岐 さや香（東京大学大学院教育学研究科）
杉野 剛（日本学術振興会(JSPS)理事長）
豊田 長康（鈴鹿医療科学大学 学長）
永田 恭介（国立大学協会 会長，筑波大学 学長）
中辻 憲夫（京都大学名誉教授、財団法人中辻創恵社）
永野 博（政策研究大学院大学，米国科学振興協会(AAAS)フェロー）
橋本 和仁（科学技術振興機構(JST)理事長）
桝 太一（同志社大学 ハリス理化学研究所）
松尾 太加志（公立大学協会 会長，北九州市立大学 学長）
三島 良直（日本医療研究開発機構(AMED)理事長）
渡辺 美代子（科学技術振興機構(JST)シニアフェロー）

シンポジウム　日本の科学をもっと元気に：イノベーションを産む場を創ろう！　14:40-17:00

座長　宮川 剛（藤田医科大学 研究推進本部 総合医科学研究部門）
北原 秀治（東京女子医科大学先端生命医科学研究所）

オーバービュートーク
AIイノベーションと基礎研究
紺野 大地（東京大学 医学部附属病院 老年内科）

講演①　**ネオコグニトロンの着想　― 視覚神経系からヒント ―**
福島 邦彦（一般財団法人ファジィシステム研究所）

講演②　科学こそが新産業をイノベートする―亡国の危機から如何に抜け出すか？
山口 栄一（京都大学 名誉教授）

パネルディスカッション
畑 恵（作新学院 理事長）
安宅 和人（慶應義塾大学 環境情報学部，Zホールディングス株式会社，データサイエンティスト協会）
平 将明（衆議院議員，自民党広報本部ネットメディア局長・デジタル社会推進本部 NFT政策検討プロジェクトチーム）
松尾 泰樹（内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局）

概要　私たちの社会には、少子高齢化問題、貧困問題、エネルギー問題、こころの問題、治療困難な種々の病など、解決しなければいけない難題が山積しています。これらの課題を解決し、すべての人が豊かで健康な生活を安心して送ることのできる未来を創るには、科学による変革 -イノベーション- が必要です。では、イノベーションが産まれやすい場、環境とはどのようなものでしょうか？このシンポジウムでは、まず、紺野大地博士がイノベーションの代表例としての人工知能（Artificial Intelligence；AI）による社会変革を概観し、現在のAIの起源となったネオコグニトロンを発明された福島邦彦先生に着想に至ったご研究とその背景についてご講演いただきます。次に、イノベーション理論で著名な山口栄一先生に、一見役にたちそうもない科学的知見から社会を変えるイノベーションが産まれる道筋についての理論を紹介いただき、イノベーションが産まれやすくなる場を日本でどのように創っていくか、講演者とパネリストで議論します。

ポスターセッション2　自由討論　17:00-18:30

ワークショップ　日本の科学をもっと元気に：科学を楽しむ場を創ろう！　17:15-18:45

座長　宇野 毅明（情報・システム研究機構 国立情報学研究所）

話題提供①　浜中 雅俊（国立研究開発法人理化学研究所）

話題提供②　河上 薫（アンサンブルピアニスト）

話題提供③　若井 有里亜（ソプラノ歌手）

概要　近年の科学技術、特にAI技術の発達によって、音楽のシーンに様々な形で変化が現れています。それを活用する人、人の演奏の良さを追求する人、新しい音楽を作ろうとする人、時代の中で人々は様々な動きを始めています。本ワークショップは科学と音楽の関わり合いをテーマとして、音楽情報処理を専門にAIを駆使した楽曲の構造解析や作曲の支援技術を研究する浜中雅俊氏と音楽家でありJAAS理事でもある河上薫氏に、それぞれの活動から生まれる楽しさや興味の観点から、音楽と科学技術が作る未来について、想いを語り、交換していただきます。リラックスした雰囲気の中で、まず、声楽家、若井有里亜さんによる「生で聞く音楽」を聴いていただき、その力を体感していただいてから、対談へと進み、世界観を提供していただきます（モデレータ：宇野毅明）。

ポスターセッション3 発表・討論(偶数番号) 9:00-10:30

パネルディスカッション1 日本の科学をもっと元気に：誰もが科学する社会を創ろう！ 10:30-12:00

座長 岩崎 渉（東京大学大学院新領域創成科学研究科）
岸村 顕広（九州大学 大学院工学研究院 応用化学部門(分子)）
森 章（東京大学先端科学技術研究センター）

話題提供① 髙瀬 堅吉（中央大学 文学部）

話題提供② 柿沼 緑（日本放送協会）

話題提供③ 片野 晃輔（Wild Scientist）

話題提供④ 高橋 祥子（株式会社ジーンクエスト 代表取締役，株式会社ユーグレナ）

概要 職業科学者ではない一般の市民によって行われる科学的活動であるシチズンサイエンスが世界的に盛り上がりを見せています。科学者と協力して研究プロジェクトを進める市民、科学教育を受けて非職業科学者として研究する市民など、科学的活動の裾野が広がりつつあります。新たな視点からの科学への貢献、政府や大学・研究機関だけでは解けない社会課題の解決などが期待される一方、市民が科学することの難しさも明らかになってきました。本シンポジウムでは誰もが科学する社会をテーマに、アカデミア、市民、在野研究者、企業など、異なる立場で科学する方々の多様な科学の実践についてご講演いただきます。その後、誰もが科学する社会の望ましい姿とはいかなるものか、実現に向けて何が課題となるのか、わたしたちは何をすべきなのか、議論していきます。

ランチョンセミナー2 日本の科学をオープンに！ 12:10-13:00

座長 小泉 周（自然科学研究機構 研究力強化推進本部）

講演 大隅 典子（東北大学 副学長，東北大学附属図書館長）

パネルディスカッション
林 和弘（科学技術・学術政策研究所 データ解析政策研究室）
茂出木 理子（東京工業大学 事務局参事 データマネジメント担当，同 研究推進部情報図書館）
新井 克久（ワイリー・パブリッシング・ジャパン株式会社 代表取締役）

共催 ワイリー・パブリッシング・ジャパン株式会社

概要 科学の成果は論文という形で報告されますが、大学や研究所などに所属する限られた人しか自由に論文にアクセスすることができない時代が長く続いていました。しかし、IT技術の発展とともに10年ほど前から欧州を中心に始まった論文のオープンアクセス化の波は、科学の成果の報告のあり方やの方向性を根本的に変える変革を引き起こしつつあります。日本でも、当該所属研究者の論文をオープンにできる(誰でも読める)「転換契約」を4大学がワイリー社(アメリカの学術出版社)と締結するなど、論文のオープンアクセス化を加速する動きが出てきています。この「転換契約」により、若手を含む一般研究者がその成果を広く世界に広める機会を増やすとも、一般市民や企業の研究者など、誰もが購読料を払うことなくアクセスすることが可能な論文が増えます。誰もがいつでもどこでも最先端の科学の成果にふれることのできる時代が近づきつつあります。しかし、「転換契約」を一つのステップとして、オープンアクセスの裾野を広げるためには科学技術行政に関わる方々、大学関係者、論文を読む一般市民の皆さまなどの様々なステークホルダーの協力が必要です。今年から大きく「転換契約」へと舵を切った東北大学、副学長兼図書館長である大隅典子先生にご講演をいただいたのち、関係者の皆様、ワイリー社のスタッフとそれぞれの立場から、どのようにして科学のオープン化をすすめ、「日本の科学を元気に！」できるかをパネルディスカッションを通じて議論します。

基調講演　日本のライフ系サイエンスを元気にするには ～アメリカと日本で研究室を主宰した経験から～　13:10-14:10

講演　柳沢 正史（筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構）

概要　血管収縮に必須の役割を果たすエンドセリンと睡眠と覚醒を制御するオレキシンの発見で著名で、筑波大学の国際統合睡眠医科学研究機構での機構長をつとめられている柳沢正史先生にご講演いただきます。これまでの先生の研究をご紹介いただいた後に、米国で20年以上にわたって研究室を主催され、日本では内閣府・最先端研究開発支援プログラム、世界トップレベル研究拠点プログラム、ムーンショット型研究開発事業（AMED）などの大規模研究プロジェクトでリーダーシップを発揮されてきたご経験から、日本の科学を元気にするためにはどうするべきかについてのご意見もいただきます。

ポスターセッション4　14:10-15:40

パネルディスカッション2　日本の科学をもっと元気に：元気に科学する場を創ろう！　14:10-16:10

座長　北原 秀治（東京女子医科大学先端生命医科学研究所）
宮川 剛（藤田医科大学 研究推進本部 総合医科学研究部門）

話題提供①　佐貫 理佳子（京都工芸繊維大学 / 卓越研究員第一期生）

話題提供②　宮川 剛（藤田医科大学 研究推進本部 総合医科学研究部門）

パネルディスカッション
斉藤 卓也（文部科学省 科学技術・学術政策局）
須田 桃子（News Picks 副編集長）
室生 暁（東京医科歯科大学 臨床解剖学分野）
柳沢 正史（筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構）
平林 晃（衆議院議員）
鈴木 健吾（株式会社ユーグレナ）

概要　日本の科学をもっと元気にするためには、科学者が研究に集中できる環境が必要です。しかしながら、現在の日本の研究環境は必ずしもそのようになっておらず、これが日本の科学の凋落の大きな原因の一つとなっていると考えられます。本企画では、日本学術振興会の卓越研究員として地方大学のテニュアトラックのポジションで研究室を運営されてきた佐貫理佳子先生に、これまでのご研究とその環境について話題提供をしていただきます。次に、JAAS・研究環境改善ワーキンググループが4月に発出した「10兆円規模の大学ファンド」と地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージの使途についての提言」について同ワーキンググループの宮川剛リーダーが紹介しつつ、「秘策」を提案します。これらをたたき台に、元気に科学する場を創るにはどうしていくのがよいかについて議論を行います。

全体討議　16:10-16:40

座長　小野 悠（豊橋技術科学大学 大学院工学研究科），馬場 基彰（京都大学白眉センター）

概要　あらゆる人々との対話と協働による科学の振興を目指して、2022年2月、日本科学振興協会（JAAS）が設立されました。「日本の科学をもっと元気に！」という想いを共有する多様な人々が草の根的に集まり、日本の科学と社会の明るい未来のため、分野、組織、職種・職階、国籍・民族、世代の垣根を越えて活動を始めつつあります。「対話と協働」の場の第一弾であるこのキックオフミーティングで、2日間を振り返りながら、JAASが目指す未来や担うべき役割についてフロアを交えて議論します。

オンラインプログラムの案内　16:40-16:50

座長　北原 秀治（東京女子医科大学先端生命医科学研究所）

共催シンポジウム1　計量テキスト分析と社会科学　12:00-14:00

座長　小塚 真啓（岡山大学），大賀 哲（九州大学）

演者　仁平 典宏（東京大学），加藤 朋江（福岡女子短期大学），中藤 哲也（中村学園大学栄養科学部）

共催　九州大学アジアオセアニア研究教育機構(Q-AOS)

概要　計量テキスト分析とは、特定の文書情報を分析し、頻出する言葉や言葉同士のつながりから、社会の中で共有されている認識や考え方を明らかにするための方法である。とくに近年では、大量のテキスト・データをコンピュータで解析する「テキストマイニング」と呼ばれる解析技術も進歩してきた。テキスト(文章)データを計量的に分析することで、人が読むだけでは掴みきれないような情報の可視化が可能である。このため、計量テキスト分析は、政府文書、政治家のスピーチ、メディア報道やアンケートの自由記述など社会科学の広範な分野で活用されている。このセッションでは、社会科学における計量テキスト分析の研究動向を踏まえながら、とくに社会に共有されている特定の認識や考え方を掘り起こすための方法論としての計量テキスト分析の可能性を考察する。具体的には、企業報告書における「持続可能性」、原発事故報道における「リスク」、政治家のスピーチにおける「対外イメージ」をそれぞれ事例として検討する。

ワークショップ1　JAAS環境カフェ(対話イベント)　14:30-16:30

座長　多田 満（国立研究開発法人国立環境研究所）

演者　多田 満（国立研究開発法人国立環境研究所）

企画　JAAS イベントワーキンググループ

概要　「環境カフェ」は、専門や職業の枠を超えた市民(高校生や学生もふくむ)の交流による環境(研究)に関する社会対話(環境対話)です。環境カフェは科学性(科学的知識)だけでなく、人文学的教養(文学)や環境倫理などの人間性から、専門家(研究者)と市民が対話の過程でともに理解と共感をえる(自分ごとと捉える)ことを目的とします。さらに参加者は、生命(人)と自然、社会(経済)のかかわりの理解から「人間であること」「いかに生きていくか」をともに考えます。なお「環境」は、身近な室内から宇宙まで、自然だけでなく、人びとの社会や文化をふくみます。

「環境カフェ」は、市民の対話を通じてともに「学ぶ」「考える」ための実践(協働)の場です。環境・社会課題について参加者がそれぞれの経験(感じたこと、知っていること、考えたこと)を対等・公平に聞き合い、問題意識や価値観(何が大切かの尺度)を共有できる「共感の場」(探究・発見)にします。

プログラム

1.概要説明と質疑応答(30分)

2.「環境カフェ」の実践(ワークショップ、90分)

ワークショップ2　「科学とはなにか」を改めて問う～異なる「科学」への視点を対話する～　14:30-16:30

座長　雲財 寛（東海大学児童教育学部）

演者　大西 勇喜謙（総合研究大学院大学先導科学研究科），小林 優子（筑波大学大学院人間総合科学研究科），市川 洋（元 海洋研究開発機構地球環境観測研究開発センター）

概要　日本科学振興協会(JAAS)は、日本における科学の振興を掲げています。では、「科学」とはどのようなものなのでしょうか。あるいは、「科学とはなにか」という問いについて、全ての人が納得する答えはあるのでしょうか。このように改めて聞かれると、意外と答えに困ると思います。

そこで、本セッションでは、この「科学とはなにか」という問いについて、対話を通して考えていきます。「科学とはなにか」という問いは、哲学的・理論的な観点から考えていくこともできますし、個人の科学的経験を元に考えていくこともできます。万人が納得する答えが出せていない問いだからこそ、異なる視点を持つ人同士の対話で気付くことも多いはずです。企画を通して一度科学を俯瞰的・多角的な視点から捉え、それぞれの「科学の像」を見直すことで、より深く「科学」について対話・思考する場を作ります。

ポスターセッション5　自由討論　14:30-16:30

ワークショップ3
日本のサイエンス・コミュニケーションのリアルな現在地を、新参キャスターが赤裸々に聞く！
16:30-18:30

座長　桝 太一（同志社大学 ハリス理化学研究所）

演者　渡辺 政隆（一般社団法人 日本サイエンスコミュニケーション協会）
小出 重幸（日本科学技術ジャーナリスト会議）
横山 広美（東京大学 国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構/学際情報学府）
小泉 周（自然科学研究機構）

概要　日本における“SC元年”から20年が経とうとしている今、この4月に入ったばかりの新参者が、足を踏み入れてみて素朴に疑問に感じたことを、先駆者の皆さんに聞いていきます。
（予定質問）
■この20年間、それぞれの立場から手応えは感じていますか？
手応えを感じた部分は具体的にどこでしょう？　感じられていない部分があるとすれば、どこなんでしょう？
■「サイエンス・コミュニケーション」という概念、用語自体は、20年間でどこまで広がりましたか？
■サイエンス・コミュニケーション業界内のコミュニケーションは、進んできていますか？
■現場で最前線に立つ「サイエンス・コミュニケーター」の皆さんに思うこと、期待することはありますか？
■コロナ禍を通して、考え方が更新された部分はありましたか？
■サイエンス・コミュニケーションという視点で、JAASに具体的に期待することは？

共催シンポジウム2
海外研究留学で日本の科学を元気にする！―高校生と日本人留学生・研究者の対話　19:00-21:00

座長　辻村 慎乃介（ベネッセコーポレーション英語・グローバル事業開発部グローバルラーニング課）
大賀 哲（九州大学大学院法学研究院）

演者　細田 満和子（星槎大学），スティーン 智子（ジョージタウン大学）

共催　ベネッセ　Route H/Global Learning Center

概要　近年、高校卒業後の進学先として、日本国内の大学ではなく、海外の大学へ進学する生徒が増加傾向にある。また、大学院から英語圏の大学院に留学する学生も多い。今では選択肢が増え、さまざまなルートから海外の大学に進学する動きが活発化している。そうして留学する学生のなかには、海外で研究歴を積み、研究者としてスタートする若者たちも多い。このセッションでは、海外研究留学を志す高校生・大学生と海外で実際に研究している研究者をつなぎ、ダイアログを深めていきたい。前半では、研究留学経験のある研究者や大学院生が講演を行い、後半はブレイクアウトルームに分かれて、分野別に高校生が研究プレゼンテーションを行い、研究者や大学院生が質問、コメントする分科会セッションを行う。

共催シンポジウム3　取り下げ

ワークショップ4
博士学生のためのキャリアガイダンス　～アカデミアでも企業でもどこでも可能性は無限大～

15:00-17:00

座長　仲 美凪（横浜国立大学大学院 環境情報学府 自然環境専攻 博士課程前期1年（東京大学 先端科学技術研究センター 森研究室））

演者　深澤 知憲（JAAS研究環境改善WGキャリアパス検討U，株式会社エマージングテクノロジーズ），土屋 太祐（日本学術会議 若手アカデミー 学術の未来を担う人材育成分科会，新潟大学 人文社会科学系（経済科学部）），引間 和浩（JAAS研究環境改善WG・リサーチWG，豊橋技術科学大学 電気・電子情報工学系），三須 敏幸（広島大学 グローバルキャリアデザインセンター），柿野 耕平（学生団体BEAST，九州大学大学院 生物資源環境科学府 博士後期課程2年生）

企画　JAAS研究環境改善ワーキンググループ(キャリアパス検討ユニット)

概要　博士課程修了後のキャリアパスは、アカデミアはもちろん、企業や行政機関など多岐に亘ります。最近では、研究職以外の働き方も増えています。一方で、巷にあふれる「就活ノウハウ」は主に学部や修士の学生を対象としたものばかりで、博士課程を通してどのようにキャリア開発に取り組み、何を基準に進路選択すべきか、など博士学生向けの情報はまだまだ多くありません。

本セッションでは、博士学生の人材育成に取り組む登壇者より、博士としてのキャリア開発の概観を提示し、アカデミックキャリア、企業への就職など多様な進路を見据えて博士学生のキャリア開発について議論します。博士学生だけでなく博士進学を考えている修士学生、学部生の参加も大歓迎です。皆さんとの対話を重視して進行しますので、「アカデミアか民間か」、「研究職か非研究職か」、「専門性をどう活かすか」などそれぞれのキャリアパスに対する不安や悩みを解消しましょう！

共催シンポジウム4
対話でつむぐ、未来社会　～科学技術を社会変革につなげるには～

17:00-19:00

座長　瀧戸 彩花（JST「科学と社会」推進部 未来共創運営グループ）

演者　北原 秀治（東京女子医科大学 先端生命医科学研究所），森 章（東京大学 先端科学技術研究センター），竹内 昌治（東京大学大学院情報理工学系研究科），上村 遥子（SUNDRED株式会社），堂目 卓生（大阪大学 社会ソリューションイニシアティブ）

コメンテーター　荒川 敦史（JST「科学と社会」推進部 未来共創運営グループ）

共催　科学技術振興機構(JST)

概要　日本の科学の明るい未来のためには、科学の振興に意欲を持つ多様な立場の人々が対話・協働を必要と考えるJAAS(日本科学振興協会)と、あらゆる人に開かれた科学と社会をつなぐ広場「サイエンスアゴラ」を運営するJST(科学技術振興機構)が共同で開催するセッションです。

社会の多様なプレイヤーとの開かれた対話を通じて、日本の科学を元気にしながら、研究開発成果を望ましい社会変革や課題解決につなげるためには、どのような主体と連携すべきなのか。また、どのようなアプローチが有効なのか。

JSTが推進する、未来社会を見据え挑戦的な研究開発を行うプロジェクトや、地域課題の解決に共創的に取り組む研究開発プロジェクトより、それぞれ研究者から実例を紹介しながら、組織や専門、学問領域の壁を越えて課題解決や新事業創出に取り組んでいる方々の知見を交えて議論します。

共催シンポジウム５
サイエンスコミュニケーションの本来の目的は何であろうか？語り手には十分な熱意があるのであろうか？また受け手はそこから何を得られているのだろうか？ 19:00-21:00

座長 湯浅 誠（カクタス・コミュニケーションズ株式会社）
加納 愛（カクタス・コミュニケーションズ株式会社）

演者 黒ラブ教授（吉本興業/大学の先生芸人，東京大学大学院情報学環）
佐伯 恵太（フリーランス俳優・サイエンスコミュニケーター）
藤田 信太郎（株式会社 日テレ アックスオン 企画戦略センター 新規事業開発部）
瀧澤 美奈子（科学ジャーナリスト ライター(日本科学技術ジャーナリスト会議副会長)）
森 章（東京大学先端科学技術研究センター）
武田 隆太（株式会社リバネス）

共催 カクタス・コミュニケーションズ株式会社

概要 本来のサイエンスコミュニケーションは、一般の人にはわかりずらい「科学」が、受け手の人生にどう役に立つかを伝え、またそこから得られた知識を受け手が自ら応用できるようにするための手助けをする事である。例えば「たばこ」が人間の健康に与える影響をサイエンスコミュニケーターなどがわかりやすく語る事で、禁煙運動につながり、健康が促進されるなどである。このように科学がもたらすプラスの側面を広く一般に伝える事がサイエンスコミュニケーターが果たすべき役割である。勿論その手前の科学教育を推進して、未来の研究者(予備軍含む)を育成する支援をする事も大切な役割である。

現在サイエンスコミュニケーターという職業が定着し、様々な活動が展開されているが、ここで今一度職業としてのサイエンスコミュニケーターの役割や未来像、そしてサイエンスコミュニケーションは誰が行うものなのか、それはサイエンスコミュニケーターだけの仕事なのか？研究当事者である研究者は一般に向けてのコミュニケーションを他人に委ねていいのか？などについて、様々な経験を持つ識者とディスカッションを展開する。

共催シンポジウム6A　シーズをどうやって実際に事業化するか？　11:00-12:00

座長　片桐 豪志（Deloitte Tohmatsu Science and Technology代表，有限責任監査法人トーマツ リスクアドバイザリー事業本部 ガバメント＆パブリックサービシーズ）

演者　増山 達也（Deloitte Tohmatsu Science and Technology，有限責任監査法人トーマツ リスクアドバイザリー事業本部 ガバメント＆パブリックサービシーズ）
甲斐 敬輔（Deloitte Tohmatsu Science and Technology，有限責任監査法人トーマツ リスクアドバイザリー事業本部 ガバメント＆パブリックサービシーズ）

討論者　清野 聡子（九州大学大学院工学研究院）
小野 悠（豊橋技術科学大学，日本科学振興協会 代表理事）

共催　デロイト トーマツ サイエンス アンド テクノロジー

概要　デロイトトーマツグループには全国約30都市に地区事務所があり、地域一体となって地元企業の経済活動を支援してきました。最近では積み上げてきた信頼と実績を活かし、全国各地の産業支援機関、金融機関、大学などと連携してより一歩踏み込んだ地元中小企業、スタートアップなどへのビジネス支援を展開しています。従来の中小企業支援事業では、ビジネスマッチングや専門家によるアドバイス事業がメインでしたが、デロイトトーマツが取り組んでいる「事業プロデュース」では、実際に中小企業・スタートアップが売上を上げるまでの出口戦略に注力した伴走支援のスタイルを重視しています。地域の中小企業やスタートアップには、優れた研究開発における技術やイノベーション、製品などを持っていても、それらをビジネス化し社会実装まで実現できない状態にある企業が多い状況にあります。こうした状況には、単にビジネスマッチングや専門的なアドバイスを提供するだけではなく、実行支援も提供することが有効です。

共催シンポジウム6B　スタートアップエコシステム　12:00-13:00

座長　片桐 豪志（Deloitte Tohmatsu Science and Technology代表，有限責任監査法人トーマツ リスクアドバイザリー事業本部 ガバメント＆パブリックサービシーズ）

演者　森本 陽介（Deloitte Tohmatsu Science and Technology，有限責任監査法人トーマツ リスクアドバイザリー事業本部 ガバメント＆パブリックサービシーズ）
後藤 耀（Deloitte Tohmatsu Science and Technology，デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社 アナリティクス）
薛雨晴（Deloitte Tohmatsu Science and Technology，有限責任監査法人トーマツ リスクアドバイザリー事業本部 ガバメント＆パブリックサービシーズ）

討論者　清野 聡子（九州大学大学院工学研究院）

共催　デロイト トーマツ サイエンス アンド テクノロジー

概要　近年、欧米を中心に研究開発機関が集積し、地域の産学官金のステークホルダーのネットワークであるエコシステムを強化することで、有力な研究開発型ベンチャーを多数輩出する地域の出現が注目されている。

一方、日本は世界でもトップレベルの研究者・研究機関を有しているにも関わらず、有力研究機関や金融機関等のネットワークが構築されていない結果、持続的なイノベーションを創出するエコシステムが形成されておらず、研究成果の社会実装のスピードが遅れていると想定される。

本セクションでは、デロイトトーマツグループが保有している様々なイノベーションに関するデータを可視化することを通じて、日本のイノベーション・エコシステムを取り巻く環境について、ヒト・モノ・カネに関する課題を掘り下げる。そのうえで、今後、日本においてイノベーション・エコシステムを形成する上で、取り組むべき施策の方向性を具体的に議論する。

ワークショップ5　持続可能な研究環境に関する提言　13:00-15:00

座長　大竹 有子（沖縄県立芸術大学芸術文化研究所）

演者　辻本 香子（国立民族学博物館），金城 美幸（立命館大学生存研究所），
大嶌 徹（玉川大学リベラルアーツ学部），坂内 博子（早稲田大学理工学術院）

概要　現在の日本における研究者は、周囲に実情を理解されているとは言い難い。このテーマの提案者は母親・家事負担者であり、非常勤講師・機関研究員として研究活動を行っているが、いずれの領域においても常に高レベルの完成度を要求される。この要求は明確な場合も、暗黙の圧力である場合もあるが、個々の研究者の事情に対して一律にのしかかる現状は、研究成果の足を引っ張る要因ともなっている。

この問題はママ非常勤に限ったことではない。常勤職や単身者など研究者の環境は様々であるが、常勤職の職務の多様さ・煩雑さや、ジェンダー・バイアスによる不利益などにより、研究に支障を来した経験がある研究者は多いのではないだろうか。

一朝一夕の解決は望めまいが、まずは各々の問題点を、提示しあうことで可視化し共有する。さらに境遇や分野を超えた議論によって、より多くの研究者が持続可能な研究環境を確保する方法を模索していきたい。

ポスターセッション6　自由討論　13:00-15:00

ワークショップ6
科学の場に参加する"ハードル"を取り除くには〜全ての人が科学を楽しむ場を作るために〜
15:00-17:00

座長　並木 重宏（東京大学先端科学技術研究センター）

演者　並木 重宏（東京大学先端科学技術研究センター）
久米 良作（元小学校教諭，牡丹の会）
青木 優美（元つくば院生ネットワーク，株式会社しびっくぱわー）
小林 秀之（筑波大学人間系障害科学域，科学へジャンプ地域版 運営委員長）
高村 明良（全国高等学校長協会入試点訳事業部専務理事，科学へジャンプ・イン関東実行委員会）
清和 嘉子（筑波大学附属視覚特別支援学校教諭，科学へジャンプ・イン関東実行委員会事務局）

概要　本来、科学という営みは全ての人が等しく可能な営みであり、また全ての人がその楽しみを享受することができるものです。しかし、現実の多くの科学の場では、身体的なハードルを始めとして、何らかのハードルを感じる人が少なくありません。全ての人が参加可能である場を目指すJAASにとって、この現実は避けて通ることができないものです。

では、ハードルを取り除いた場づくり・環境づくりは、どのようにして実現可能なのでしょうか。ただ、全ての人が異なる個性を持っている以上、それぞれの人が感じるハードルは、その場や個人の文脈に大きく依存します。

そこで、ハードルを克服するための場づくり・環境づくりや取り組みをされてきた方々の実践や経験を元に、ハードルを取り除いた場の実現に必要な事柄について考えていきます。特に、今回のセッションでは、視覚や聴覚に関わる、身体的なハードルに焦点を当てて考えていきます。

ポスターセッション7　自由討論　15:00-17:00

共催シンポジウム7　エネルギーの国際政治経済　17:00-19:00

座長　大賀 哲（九州大学）

演者　市川 顕（東洋大学），岩田 健治（九州大学），御代田 有希（一橋大学）

共催　九州大学エネルギー研究開発機構(Q-PIT)

概要　ロシアによるウクライナ侵攻が長期化するなかで、エネルギー需給をめぐる国際政治経済の動きが活発化している。EUはロシアへの経済制裁を強化しつつあるが、エネルギー依存先への経済制裁は、制裁される側のみならず制裁する側へのダメージも大きい。とくにいくつかのEU加盟国は、天然ガスをはじめとする化石燃料エネルギー供給をロシアに依存してきたため、経済制裁の影響は無視できない。さらに政治的要因としては、原子力発電への抵抗感(脱原発)を持つ国、再生可能エネルギー利用(脱炭素)を望む国、エネルギー安全保障を追求し自国産石炭を利用してでもロシアからの切り離し(反露)を求める国、などの思惑がせめぎ合っている。これらの「脱原発」「脱炭素」「反露」の３つのベクトルが一点に交わる可能性は少なく、欧州委員会主導のREPower EUに加盟各国がどこまで寄せていけるかが焦点となっている。このセッションでは、ロシアによるウクライナ－侵攻後の動向を踏まえながら、「エネルギーの国際政治経済」について、政治学、経済学の専門家とともに議論していく。

ワークショップ7　JAASで社会連携は可能か？　19:00-21:00

座長　林 愛子（株式会社サイエンスデザイン）

演者　飯島 賢二（大阪大学 国際共創大学院プログラム推進機構），片桐 友二（ノボジーン株式会社），諏訪 智巳（三菱電機株式会社）

企画　JAAS 社会連携ワーキンググループ

概要　社会連携WG企業コミュニケーションユニットを主体とするイベントです。さまざまな社会課題の解決のために一層の産官学連携に期待が寄せられ、さまざまな取り組みが推進されていますが、企業とアカデミーのマッチングには未だセレンディピティ的な要素が強く、必ずしも期待する効果が得られていないのが実情です。

社会連携WGではこうした課題を踏まえて、科学の力で将来の課題解決法を模索する企業と大学の新しい取組みを考えていきます。企業とアカデミーの連携は事業開発や研究支援、人材育成など多様な側面がありますので、本ワークショップでは企業とアカデミーの双方の視点を大切に、企業コミュニケーションユニットに所属するメンバーから話題を提供し、ワークショップに参加される皆さんと一緒に今後の活動の方向性を考えていきます。

ワークショップ8　JAAS若手企画セッション
私たちは”科学”をどう捉えていくべきか　〜豊かな社会を目指して〜　19:00-21:00

座長　城戸 研仁（Science Kido，日本科学振興協会）

演者　下平 剛司（国立研究開発法人水産研究・教育機構，日本科学振興協会）
櫃割 仁平（京都大学教育学研究科，TeacherAide）
岡野 めぐみ（東京大学法学政治学研究科法曹養成専攻，日本若者協議会）
遠藤 佑（文部科学省ガツガツ若手ワーキンググループAirBridge）

概要　私たちが生きる社会には、科学が大きく関わっています。AIや宇宙開発、再生医療をはじめとした様々な科学や科学技術の発展は、未来への大きな夢や希望を与えてくれます。しかし、このような正の側面だけではなく、科学には負の側面もあります。それは格差や分断、戦争や環境破壊など、決して見過ごすことのできないものばかりです。そして、そのどちらも、私たち若い世代は、若い世代なりに身をもって知っています。

では、単純には語り得ない”科学”を、私たちはどのように捉えて未来の社会を形作っていけばよいのでしょうか。

この難題に取り組んでいくためには、膨大な対話と熟慮の積み重ねによる合意形成や、多くの仲間が必要です。だからこそ、科学と社会の未来について、これからの社会を担う若い世代が共有している経験や文化をベースにした対話を行い、この世代における連帯・協働の形や、若い世代がこれから取り組んでいけることを探っていきます。

ポスターセッション8　自由討論　19:00-21:00

共催シンポジウム8A　カーボンニュートラル　11:00-12:00

座長　齋藤 晃太郎（Deloitte Tohmatsu Science and Technology，有限責任監査法人トーマツ リスクアドバイザリー事業本部オペレーショナルリスク）

演者　宍戸 圭介（Deloitte Tohmatsu Science and Technology，有限責任監査法人トーマツ リスクアドバイザリー事業本部 ESG統合報告G）
毛利 研（Deloitte Tohmatsu Science and Technology，有限責任監査法人トーマツ デロイトアナリティクス）
大場 久永（Deloitte Tohmatsu Science and Technology，有限責任監査法人トーマツ デロイトアナリティクス）

討論者　森 章（東京大学先端科学技術研究センター）
小野 悠（豊橋技術科学大学，日本科学振興協会 代表理事）

共催　デロイト トーマツ サイエンス アンド テクノロジー

概要　2020年に日本政府は2050年までに温室効果ガスの排出量を全体としてゼロにする、すなわちカーボンニュートラルを目指すことを宣言したが、その大半を占めるCO2排出量を実質ゼロにすることに貢献する技術の社会実装に向けた現実解（道筋）は示されていない。

デロイト トーマツ グループの科学技術イニシアチブDeloitte Tohmatsu Science and Technologyでは、カーボンニュートラルに貢献する技術をCO2排出削減量のポテンシャル及びCO2排出削減コスト、技術成熟度等の観点から整理して比較するリストの作成を試みている。本講演では技術リストについての作成過程や利用方法について解説を行う。

また、最先端の自然言語処理技術と国内外の新聞記事（科学技術誌含む）を活用して、脱炭素関連に係る記事を抽出、脱炭素技術トピック毎の注目度や進捗度合いを可視化した結果の解説をあわせて行う。

共催シンポジウム8B　林業イノベーション　12:00-13:00

座長　片桐 豪志（Deloitte Tohmatsu Science and Technology代表，有限責任監査法人トーマツ リスクアドバイザリー事業本部 ガバメント＆パブリックサービシーズ）

演者　鈴木 秀明（Deloitte Tohmatsu Science and Technology，有限責任監査法人トーマツ リスクアドバイザリー事業本部 ガバメント＆パブリックサービシーズ）
杉山 貴志（Deloitte Tohmatsu Science and Technology，デロイトトーマツコンサルティング合同会社 パブリックセクター）

討論者　森 章（東京大学先端科学技術研究センター）
小野 悠（豊橋技術科学大学，日本科学振興協会 代表理事）

共催　デロイト トーマツ サイエンス アンド テクノロジー

概要　このセッションでは、林業・木材産業に関する技術開発や技術導入に既に取り組まれている方、または興味をお持ちの方を主に想定しており、今後林業分野での導入が見込まれる各種技術（技術リスト）や、林業のバリューチェーンに沿った特許の分析結果を紹介します。技術リストにおいては、開発～初期の社会実装（0→1への発展）と、初期の社会実装～普及（1→10 or 100）までの商用化フェーズ毎に必要な情報を一覧化すべく、NASA等も使用する技術成熟度（TRL）を各技術に付与し、商用化の確度や時期、技術を保有する主体等を整理しています。特許分析においては、林業の施業に即したバリューチェーン毎に必要な技術が異なることから、バリューチェーンに沿って分析した特許の件数や、主要開発プレーヤ等を紹介します。また、その他、特定領域を例に、昨今開発が行われている具体的な技術課題の内容についても紹介します。

ワークショップ9　文系大学院修了者のキャリアパスを考える　13:00-15:00

座長　大竹 裕香（JAAS研究環境改善WG，九州大学大学院人間環境学府）

演者　吉田 文（早稲田大学 教育・総合科学学術院），隠岐 さや香（東京大学大学院 教育学研究科），
西田 亮介（東京工業大学 リベラルアーツ研究教育院），
深澤 知憲（JAAS研究環境改善WG，株式会社エマージングテクノロジーズ）

企画　JAAS研究環境改善ワーキンググループ（人文社会系ユニット）

概要　「文系」の研究も「理系」の研究も，地道で辛い道のりの先に自分だけの発見をする喜びは大きく，その過程で身に付く能力も得難いもののはずです。しかし，日本においては，「理系」に比べ，「文系（人文社会系）」の大学院修了者がその専門性や研究経験を評価される職業がとても少ない，といった状態にあります。実はさまざまな問題が絡まっているこの現状，いったいどうしたらよいのでしょうか？本企画では，この問題を解きほぐした書籍「文系大学院をめぐるトリレンマ－大学院・修了者・労働市場をめぐる国際比較」の編著者である吉田文氏によるご講演を起点とした討論セッションを行います。討論者は，ご専門やお立場の異なる３名の方－西田亮介氏（社会学），隠岐さや香氏（科学史），深澤知憲氏（博士人材支援），そしてフロアの皆様です。人社系の大学教員や大学院生だけでなく，「理系」の研究者の方，企業・官公庁関係者の方など，多様な立場の方のご参加をお待ちしています。これからの「文系」について，多様な視点から議論を深めましょう。

ポスターセッション9　自由討論　13:00-15:00

共催シンポジウム９　研究公正の推進のために必要な取り組みとは？研究者、行政、社会の取り組み　15:00-17:00

座長　田中 智之（京都薬科大学），中村 征樹（大阪大学）

パネルディスカッション

菱山 豊（徳島大学）
松澤 孝明（文部科学省）

共催　JST-RISTEX「科学技術イノベーション政策のための科学 研究開発プログラム」

概要　質の高い研究を実施するためには、研究公正が積極的に推進される環境が必要であるが、当事者である研究者を含め、このことは十分に認識されているとは言い難い。そこで、研究者、行政、そして最終的には社会が、どのようにこの問題に取り組めば良いのかについて議論する。具体的なテーマとしては、１）倫理教育やルールの効果と限界、２）誰が研究公正を進めるか、３）日本版ORIの可能性、について取り上げる。本シンポジウムはJST-RISTEXの「科学技術イノベーション政策のための科学研究開発プログラム」の田中プロジェクト、中村プロジェクトの合同企画として開催するが、どちらのプロジェクトも「共進化」枠として行政との連携が求められており、議論の成果を政策に反映することを目指したい。

共催シンポジウム10
Easing the path towards open science for researchers in Japan (仮)　17:00-19:00

演者　Nick Campbell (Academic Affairs, Springer Nature)
Ed Gerstner (Research Environment Alliances, Springer Nature)
Maria Hodges (BMC Journals)

パネルディスカッション
宮川 剛 (藤田医科大学 研究推進本部 総合医科学研究部門)

共催　シュプリンガー・ネイチャー

概要　オープンサイエンスは、研究成果やプロセスのオープン化やネットワーク化を通して研究成果へのアクセス向上をはかり、共有・利活用の促進によって情報と知識の発見を促し、研究と社会の進展に貢献することを目的とした重要な取り組みです。オープンサイエンスにはさまざまな構成要素があり、研究成果のオープン化に関わるものから、オープンサイエンス実践のための基盤構築や多様性・公平性・包括性(Diversity, Equity, and Inclusion、DEI)や研究公正のように研究環境の構造的な課題に取り組むものまであります。シュプリンガー・ネイチャーでは、研究者がオープンサイエンスの恩恵を最大限に受けることができるよう、先進的な取り組みを多角的に行っています。本セッションでは、より実践しやすいオープンサイエンスに向けて取り組む当社の活動を紹介します。

ワークショップ10　異分野融合研究のためのファシリテーション　19:00-21:00

座長　宇野 毅明 (情報・システム研究機構 国立情報学研究所 情報学プリンシプル研究系)

演者　嶋田 一義 (科学技術振興機構), 中川 智皓 (大阪公立大学), 加藤 彰 (九州大学), 大賀 哲 (九州大学), 小野 悠 (豊橋技術科学大学)

概要　このセッションでは、異分野の研究者が集まって共同研究をするという想定で、そこで必要になるファシリテーション能力について実践していきます。ファシリテーションやディスカッションについての座学や研修はすでに世の中に溢れていると思いますので、ここでは「実践」を重視して、ファシリテーションを実演していきます。

●インタビューイング
対象者の活動や思想について、なぜそれをしているのか、どのような経緯か、ということで問い深め、質問者がしっかりと理解するというプロセスを考えていきます。

●比喩と言い換え
相手のことをよりよく知る、自身のことや理解をうまく説明するために、比喩や言い換えがよく使われています。ここでは効果的な比喩や言い換えを考えていきます。

●共通の興味の捻出
共同で仕事や研究を進めていく場合、「お互いの興味が持てるところを探す」という作業が重要になります。互いが同じものに興味を持つためには、いくつかの定型があります。興味関心がうまく重なる部分を見つける方法を考えていきます。

ワークショップ11　科学・研究・大学のことを何でも聞いてみよう　19:00-20:00

座長　**黒ラブ教授**（吉本興業，東京大学 大学院 情報学環，私立大学 理系学部・工学部・医療系学部）

演者　**市川 洋**（元 海洋研究開発機構 地球環境観測研究開発センター），
黒ラブ教授（吉本興業，東京大学 大学院 情報学環，私立大学 理系学部・工学部・医療系学部），
住井 英二郎（東北大学 大学院 情報科学研究科・工学部），
田中 智之（京都薬科大学），**田中 悠平**（国立台湾科技大学 工学研究科 博士課程），
鶴田 宏樹（神戸大学 バリュースクール，同 工学研究科，同 大学教育推進機構，同 産官学連携推進本部），**冨樫 祐一**（立命館大学 生命科学部），**並木 重宏**（東京大学 先端科学技術研究センター），
坂内 博子（早稲田大学 先進理工学部），**引間 和浩**（豊橋技術科学大学 電気・電子情報工学系），
山形 方人（ハーバード大学 芸術科学学部），**山田 祐樹**（九州大学 基幹教育院）

概要　JAASの第一線の研究者・大学教員・科学コミュニケーターたちが，科学・研究・大学等に関する高校生や一般の方々からのご質問にお答えします！ 例：「…の研究者になるにはどうすれば良いですか？」「…の研究って実際には何をしてるんですか？」「大学での…について知りたいです」「高校での…について意見をください」等々，自由に聞いてください．（回答は各個人の意見であり，組織を代表するものではありません．）

ご質問は https://bit.ly/ask-jaas で事前募集します．もし当日の時間内にすべてのご質問に回答できない場合も，なるべく多くのご質問に文章等で回答する予定です．時間があれば当日のご質問も受け付けますが，あらかじめお送りいただいほうが確実です．詳しくは前述リンク先を随時更新しますので時折ご覧ください．

ワークショップ12
広報・アウトリーチWG紹介セッション「伝わる」文章を書こう！　20:00-21:00

座長　**鈴木 遼**（森北出版，日本科学振興協会）

演者　**鈴木 遼**（森北出版，日本科学振興協会），**吉野 宏志**（広島大学大学院人間社会科学研究科，日本科学振興協会），**菊池 結貴子**（日本科学振興協会），**田中 悠平**（日本科学振興協会），
市川 洋（独立海洋学研究者，日本科学振興協会）

企画　JAAS 広報・アウトリーチワーキンググループ

概要　広報・アウトリーチWGは、人々の間で科学についての対話が活発になり、科学振興の幅が広がることを目標として、JAAS組織外の方々にJAASの存在を広く知ってもらうための活動と、JAA組織内での情報共有を推進するための活動をしています。活動のひとつとして、slack、SNS、ブログ、メルマガなど、さまざまな媒体に掲載する文章の制作が挙げられます。書く人も読む人も多様なこの組織、受け取ってほしい相手にきちんと伝わる文章を書くには、いったいどうすればよいのでしょうか。本セッションでは、WGのメンバーがとある「伝わらない演題要旨(仮)」と向き合い、受け取り手が納得できるような「最強の演題要旨(仮)」になるようトコトン添削します。研究者だったり、サイエンスコミュニケータだったり、さまざまな属性のメンバーが、それぞれの視点からコメントします。参加者の皆様も、チャット機能を使って添削に参加してください。「伝わる」文章を書くにはどうしたらよいのか、一緒に考えましょう！

ポスターセッション10　自由討論　19:00-21:00

6月24日(金)　プログラム

第1回総会　19:00-20:30

概要　総会はNPO法人の最高意思決定機関で、少なくとも年1回の開催が義務付けられています。JAASでは4月から翌年3月を事業年度としており、事業年度終了から3カ月後の6月末日までに東京都へ事業報告を行わなければなりません。総会の主な議案は、この東京都へ報告する内容に関するもので、有権者(JAAS正会員)のみなさまの決議が必要です。

閉会式　20:30

6月18日(土)～19日(日)　オンサイトポスター発表

6月18日(土) 11:00-12:30　　奇数番号の発表・討論
6月19日(日) 9:00-10:30　　偶数番号の発表・討論

OP1　活力ある社会を創る適応自在AIロボット群：ムーンショットプロジェクトの目指す2050年の社会とは

平田 泰久

東北大学大学院

OP2　東北大学人工知能エレクトロニクス(AIE)卓越大学院プログラムのご紹介

住井 英二郎，金子 俊郎

国立大学法人 東北大学

OP3　学術変革「極限宇宙」における分野融合と、人工量子物質による量子ブラックホールの解明に向けた理論研究

手塚 真樹

京都大学理学研究科

OP4　温室効果ガスの削減に向けた市民参加型研究「地球冷却微生物を探せ」

青木 裕一[1,2]，大久保 智司[3]，戸田 聡一郎[4]，南澤 究[3]

[1]東北大学 東北メディカル・メガバンク機構，[2]東北大学 大学院情報科学研究科，[3]東北大学 大学院生命科学研究科，[4]東北大学 大学院文学研究科

OP5　民主主義の運用に適した議論の形態の理論的考察―ディベートとディスカッションの比較検討を通して―

榎本 航征

九州大学

OP6　演題取り下げ

OP7　日本の研究者の現状と教育の必要性について

濱田 晋之介

株式会社RDサポート

OP8　科学と実践が駆動する地域ガバナンスに基づく、未来志向型の森林生態系の適応的管理に関するシナリオ開発

山本 幸[1]，小林 勇太[2]，中西 将尚[1]，鈴木 紅葉[3]，森 章[2]

[1]公益財団法人 知床財団，[2]東京大学 先端科学技術研究センター，[3]横浜国立大学 環境情報学府

OP9　「暇な時間に研究しよう」一般社団ヒマラボでの取り組み

森田 泰暢[1]，池田 治彦[2]

[1]一般社団ヒマラボ，[2]株式会社ライクブルー

OP10　学術変革領域(B)クラスタ/ハブダイナミズムの決定剛軟因子

大本 育美[1]，中村 匠[1]，木村 俊[2]，高田 篤[1]，竹田 晃人[2]，村山 正宜[1]

[1]理化学研究所 脳神経科学研究センター，[2]茨城大学 大学院理工学研究科 機械システム工学専攻

OP11　精神疾患の進化的理解：VMAT1 遺伝子進化の影響を検証する

佐藤 大気[1,5]，井上(上野)由紀子[2]，森本 由起[2]，井上 高良[2]，久我 奈穂子[3,4]，佐々木 拓哉[3,4]，服部 聡子[1]，Sala Giovanni[1]，宮川 剛[1]，河田 雅圭[5]

[1]藤田医科大学 医科学研究センター，[2]国立精神・神経医療研究センター，[3]東京大学大学院 薬学系研究科，[4]東北大学大学院 薬学研究科，[5]東北大学大学院 生命科学研究科

OP12　新しいタンパク質修飾・乳酸修飾とストレス

萩原 英雄[1]，昌子 浩孝[1]，大給 日香里[2]，豊田 淳[2]，加藤 薫[3]，波平 昌一[3]，宮川 剛[1]

[1]藤田医科大学 研究推進本部 総合医科学研究部門 医科学研究センター システム医科学研究部門，[2]茨城大学 農学部 飼料資源科学研究室，[3]国立研究開発法人 産業技術総合研究所 バイオメディカル研究部門

OP13　脳の「過剰な」活動がもたらす「擬似的な」若返り

村野 友幸，宮川 剛

藤田医科大学

OP14　ケモユビキチン：生物学と合成化学の融合がもたらす新発想の創薬の芽

古畑 隆史[1]，佐伯 泰[2]，岡本 晃充[1]

[1]東京大学，[2]東京都医学総合研究所

OP15　アフリカから都市を考える

小野 悠

豊橋技術科学大学

OP16　バルカン半島における民族共生への道のりー政治・文化における観点からー

並木 里乃

学習院女子高等科

OP17　少数の反乱～数少ないものが化学反応・生物・社会に及ぼす影響を考える

冨樫 祐一

立命館大学 生命科学部，理化学研究所 生命機能科学研究センター

OP18　生体と共生するマテリアルの創製

山吉 麻子[1]，大場 雄介[2]，前仲 勝実[2]，白石 貢一[3]，森 健[4]，荏原 充宏[5]

[1]長崎大学，[2]北海道大学，[3]東京慈恵医科大学，[4]九州大学，[5]国立研究開発法人物質・材料研究機構

OP19　ヘテロ群知能：多様な細胞の集団動態から切り拓く群知能システムの革新的設計論

加納 剛史[1]，梅津 大輝[2]，金子 奈穂子[3]，末岡 裕一郎[4]

[1]東北大学電気通信研究所，[2]東北大学大学院生命科学研究科，[3]同志社大学大学院脳科学研究科，[4]大阪大学大学院工学研究科

OP20　新学術領域「超地球生命体を解き明かすポストコッホ機能生態学」

竹下 典男，高谷 直樹

筑波大学生命環境系微生物サステイナビリティ研究センター(MiCS)

OP21　お寺の人が思春期の生きづらさを学んでみたら

雲居 玄道[1]，藤田 圭子[2]，武田 正文[3]，古川 潤哉[4]

[1]早稲田大学，[2]浄土真宗本願寺派 寶光寺，[3]浄土真宗本願寺派 高善寺，[4]浄土真宗本願寺派 浄誓寺

OP22　個人の美的嗜好を模倣する機械

近添 淳一，ファム チュン

株式会社アラヤ

OP23　脳計測に基づく社会のウェルビーイング最大化

松森 嘉織好[1,2,3]，飯島 和樹[1,4]，蓬田 幸人[1,4,5]，松元 健二[1]

[1]玉川大学脳科学研究所，[2]東京大学，[3]日本学術振興会，[4]国立精神・神経医療研究センター，[5]ARAYA

OP24　芸術と感性を脳から科学する―神経美学―

石津 智大

関西大学

OP25　若者に向けたビジュアルアートを用いた感染症予防啓発ツール開発と社会実証

元木 伸一[1]，本田 由佳[1,2]，岡田 樹[1]，山畑 佳篤[3]，漆畑 文哉[4]，大越 匡[1,5]，中澤 仁[1,5]

[1]慶應義塾大学SFC研究所 健康情報コンソーシアム，[2]慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科，
[3]京都府立医科大学救急医療学教室，[4]静岡大学創造科学技術大学院，[5]慶應義塾大学 環境情報学部

OP26　学術変革領域研究（A）「生涯学の創出―超高齢社会における発達・加齢観の刷新」がめざす新しい超高齢社会

月浦 崇

京都大学大学院人間・環境学研究科，学術変革領域研究（A）「生涯学」領域代表

OP27　学術変革領域研究（A）「アルゴリズム基盤」（AFSAプロジェクト）の概要と近況について

湊 真一

京都大学大学院情報学研究科

OP28　【グリアデコード】脳から脊髄を介した新たな痛覚制御メカニズムの解明

高露 雄太，松田 烈士，吉原 康平，津田 誠

九州大学大学院薬学研究院薬理学分野

OP29　【グリアデコード】脊髄後角アストロサイト―神経相互作用による新たな痛覚制御メカニズム

川邉 陸，吉原 康平，津田 誠

九州大学大学院薬学研究院薬理学分野

OP30　学術変革領域研究（B）「生体分子工学と低物理エネルギーロジスティックスの融合による次世代非侵襲深部生体操作」

井上 圭一[1]，水野 操[2]，今村 博臣[3]，中川 桂一[1]，関野 正樹[1]

[1]東京大学，[2]大阪大学，[3]京都大学

OP31　福岡大学商学部シチズンサイエンス研究センターでの取り組み

森田 泰暢，大上 麻美

福岡大学商学部シチズンサイエンス研究センター

OP32　自然資本主義社会モデルを基盤とする次世代型食料供給産業の創出～人と地球の未来をつなぐ「食」を考える～

高橋 伸一郎[1]，花園 豊[2]，黒尾 誠[2]，崔 龍洙[2]，潮 秀樹[1]，伯野 史彦[1]，山中 大介[1]，小南 友里[1]，増田 正人[3]，宮本 崇史[4]

[1]東京大学，[2]自治医科大学，[3]東洋大学，[4]筑波大学

OP33　発明論の骨子　想像したことを実現するために

滝本 力斗

慶應義塾大学環境情報学部

OP34　【グリアデコード】グリア細胞の異常が緑内障の原因となる可能性

篠崎 陽一[1,2]，ルング アレックス[3]，行方 和彦[4]，繁冨 英治[1,2]，柏木 賢治[5]，原田 高幸[4]，大沼 信一[3]，小泉 修一[1,2]

[1]山梨大学大学院 総合研究部 医学域 基礎医学系 薬理学講座，[2]山梨大学GLIAセンター，[3]ロンドン大学 眼科学研究所，[4]東京都医学総合研究所 視覚病態プロジェクト，[5]山梨大学大学院総合研究部 医学域 臨床医学系 眼科学講座

OP35　【グリアデコード】マウス脳内への人工多能性幹細胞由来ヒトミクログリアの非侵襲的移植方法の確立

パラジュリ ビージイエ，小泉 修一

山梨大学・院医・薬理，山梨大学・GLIAセンター

OP36　抗認知症薬の新規ターゲット分子としてのコンドロイチン硫酸プロテオグリカンの集学的解析

前田 祥一朗，山田 純，神野 尚三

九州大学

OP37　シナジー創薬学：情報・物質・生命の協奏による化合物相乗効果の統合理解と設計

山西 芳裕

九州工業大学

OP38　学術変革領域B: pH応答生物学の創成

高橋 重成[1]，船戸 洋佑[2]，栗原 晴子[3]，岡村 康司[4]

[1]京都大学 白眉センター，[2]大阪大学 微生物病研究所，[3]琉球大学 理学部，[4]大阪大学 医学系研究科

OP39　デジタルバイオスフェア：地球環境を守るための統合生物圏科学

伊藤 昭彦[1,2,3,4]，彦坂 幸毅[4]，熊谷 朝臣[5]

[1]国立環境研究所，[2]海洋研究開発機構，[3]名古屋大学，[4]東北大学，[5]東京大学

OP40　微生物生態学に関連したアウトリーチ活動の実践事例

中島 悠

国立研究開発法人海洋研究開発機構

OP41　アニメーション技術を活用したマウスバンクに関するアウトリーチの推進

前田 龍成[1]，中尾 聡宏[1]，中潟 直己[2]，竹尾 透[1]

[1]熊本大学生命資源研究・支援センター動物資源開発研究施設(CARD)資源開発分野，
[2]熊本大学生命資源研究・支援センター動物資源開発研究施設(CARD)生殖工学共同研究分野

OP42　分散型サイエンスは新たなオープンサイエンスを可能にするか？

濱田 太陽

株式会社アラヤ

OP43　学術変革領域「非ドメイン型バイオポリマーの生物学」～生物の柔軟な分子機能獲得戦略

中川 真一

北海道大学

OP44　テンソル分解を用いた教師無し学習による変数選択法のバイオインフォマティクスへの応用

田口 善弘

中央大学理工学部物理学科

OP45　国民と国会の理解と納得に基づく科学技術の振興を実現する新しいコミュニケーション『ポリネコ！』

岩田 崇

株式会社ハンマーバード，慶應義塾大学SFC研究所

OP46　キャリア教育プログラムにおける学生への教育効果を向上を企図した産業界経験者の教育参画のしくみ

松本 利憲

電気通信大学

OP47　コロナ禍における大学院生間の交流促進のためのオンライントークイベント実施報告

山崎 大輝[1]，尾崎 皐[2]，小林 柚子[3]，北村 景一[4]，正司 豪[5]

[1]京都大学大学院理学研究科，[2]大阪大学工学部電子情報工学科，[3]東京大学大学院新領域創成科学研究科，
[4]関西大学大学院総合情報学研究科，[5]早稲田大学大学院人間科学研究科

OP48　学部一年次から育てる本気の研究／教育プロジェクト：人間環境大学総合心理学部@愛媛松山の挑戦

横光 健吾，高野 裕治，伊藤 義徳，佐藤 隆夫

人間環境大学総合心理学部

OP49　数学・応用数学の領域における科学コミュニケーション活動の事例報告

根上 春[1,2]，中島 悠[3]

[1]千葉大学大学院，[2]NPO法人数学カフェ，[3]国立研究開発法人海洋研究開発機構

OP50　演題取り下げ

OP51　新学術「シンギュラリティ生物学」が目指す生物学の新展開

永井 健治[1,2]，坂内 博子[1,3]，市村 垂生[1,2]，大浪 修一[1,4]，橋本 均[1,2]

[1]新学術領域「シンギュラリティ生物学」，[2]大阪大学，[3]早稲田大学，[4]理化学研究所

OP52　分子の振る舞いから読み解く脳のしくみ

坂内 博子

早稲田大学

OP53　機動的な研究開発を支援する研究リソースシェアリング

古谷 優貴

株式会社Co-LABO MAKER

OP54　物理アクセサリーを通じた科学的な対話の創出への試み

青木 優美

粒や（個人事業主）

OP55　2つの科学コミュニケーション科学に興味のない人にどのように科学を伝えるか？笑いと科学実践×研究

黒ラブ 教授

吉本興業，東京大学大学院情報学環

OP56　南島歌謡の解釈における自然科学分野との共同研究の可能性

大竹 有子

沖縄県立芸術大学芸術文化研究所，沖縄文化協会，奄美沖縄民間文芸学会

OP57　電磁波が冷えたら磁石になる？

馬場 基彰
京都大学 白眉センター，京都大学 大学院理学研究科

OP58　磁石とは何か

坂 尚樹
東京工科大学

OP59　電波に関する科学リテラシー；マイクロ波聴覚効果

小池 誠
マイクロ特許事務所，小池誠マイクロ波研究所

OP60　SNSを使ったサイエンスコミュニケーションにおける試行錯誤

佐伯 恵太[1]，北白川 かかぽ[2]，高遠 頼[2]，KIWAMU
[1]なし(フリーランス)，[2]なし

OP61　ハイブリッド戦争における対外政策言説の形成ー対ロ経済制裁を事例として

岸本 隼弥[1]，大賀 哲[2]
[1]放送大学，[2]九州大学大学院法学研究院

OP62　大規模マウス行動データを用いた精神神経疾患モデル遺伝子群の新たな分類

昌子 浩孝，佐藤 大気，高宮 義博，服部 聡子，宮川 剛
藤田医科大学 研究推進本部 総合医科学研究部門 医科学研究センター システム医科学研究部門

※発表日時は、p2の日程表を確認してください。それぞれの演題がいつ発表するかは、6月初旬にホームページに掲載します。

WP1　**論文詩――科学と科学者と市民のためのコミュニケーションツール**

多田 満

国立研究開発法人国立環境研究所

WP2　**【グリアデコード】マウス胎生早期における脳室内腔マクロファージとミクログリアの細胞動態**

服部 祐季

名古屋大学

WP3　**【グリアデコード】局所脳血流変化はマウスの行動や神経活動に影響を与えるのか**

阿部 欣史，田中 謙二

慶應義塾大学医学部 先端医科学研究所 脳科学研究部門

WP4　**競合的コミュニケーションから迫る多細胞生命システムの自律性**

井垣 達吏

京都大学大学院生命科学研究科

WP5　**【グリアデコード】社会的ストレスによる痛みの変調とグリアの関与**

齊藤 秀俊[1]，津田 誠[2]

[1]国際医療福祉大学，[2]九州大学大学院薬学研究院

WP6　**Journal of JAAS：本協会オリジナルのジャーナル創刊に向けて**

山田 祐樹

九州大学

WP7　**新しい査読システムの提案：「三位一体査読」で研究者の書類作業削減と研究の透明性向上を目指す**

高嶋 魁人[1]，森 優希[1]，植田 航平[1]，佐々木 恭志郎[2]，山田 祐樹[1]

[1]九州大学，[2]関西大学

WP8　**女性の健康課題の分析とデータビジュアライゼーションの検討～情報科学×アート×医療の融合による創造～**

本田 由佳[1,2]，佐藤 雄一[1,2]，福田 小百合[1,2]，井上 従子[1]，岡田 樹[3]，松田 優作[4]，西口 孝広[5]，元木 伸一[1]，大越 匡[1]，中澤 仁[1]

[1]慶應義塾大学SFC研究所 健康情報コンソーシアム TeamROSE（女性の健康の研究と啓発チーム），[2]産科婦人科舘出張 佐藤病院，[3]株式会社kitoi，[4]一橋大学，[5]株式会社empheal

WP9　**【グリアデコード】2020年度採択　学術変革領域（A）「グリアデコーディング：脳-身体連関を規定するグリア情報の読み出しと理解」**

岡部 繁男

東京大学大学院医学系研究科

WP10　**日本の科学を「寄付」で元気に！―寄付者・研究者に知ってほしい3つの寄付研究と日本の課題―**

渡邉 文隆

京都大学 経営管理大学院，信州大学 社会基盤研究所，公益財団法人 京都大学iPS細胞研究財団

WP11　ムーンショット研究：微小炎症制御プロジェクトとは？＜量子技術と神経回路の人為的な制御による健康長寿社会実現への挑戦＞

田中 勇希[1,2]，大木 出[1]，村上 正晃[1,2,3]

[1]量子科学技術研究開発機構 量子生命科学研究所 量子免疫学研究チーム，[2]北海道大学遺伝子病制御研究所 分子神経免疫学分野，
[3]自然科学研究機構 生理学研究所 生体機能調節研究領域 分子神経免疫学部門

WP12　風鈴文化の保存

大槻 麻由香[1,2]，横田 輝樹[1]，大友 康平[1]

[1]宮城県仙台第一高等学校，[2]Benesse Global Learning Center

WP13　学生主体の科学コミュニティの運営と展望について

赤神 青空[1]，中野 尭雄[2]

[1]高知大学理工学部数学物理学科物理科学コース，[2]東海大学工学部材料科学科

WP14　誘導ラマン散乱顕微法の開発と応用

小関 泰之

東京大学大学院工学系研究科

WP15　社会気象学の開拓：自然科学と社会科学の連携による革新的天気予報へ向けて

澤田 洋平[1]，小谷 仁務[2]，川畑 拓矢[3]，藤見 俊夫[4]

[1]東京大学工学系研究科附属総合研究機構，[2]京都大学地球環境学堂，[3]気象庁気象研究所，[4]京都大学防災研究所

**WP16　自然環境水中でレアアースはどのようにどのくらい存在しているのだろう？
―ユウロピウムとカルボン酸のスペシエーション―**

田中 悠平，劉 志成

国立台湾科技大学

WP17　電気化学プロセスを主体とする革新的CO_2大量資源化システムの開発

江部 広治，杉山 正和

東京大学先端科学技術研究センター

WP18　リサーチワーキンググループの活動と課題

片桐 友二

ノボジーン株式会社，一般社団法人 科学・政策と社会研究室，NPO法人 イノベーション・ネットワーク

WP19　機能性ラマンプローブによる革新的多重イメージング

神谷 真子

東京工業大学

WP20　日常の音に対する感受性：ASMRと音嫌悪症の関係

近藤 洋史，多田 奏恵，長谷川 龍樹

中京大学

WP21　【グリアデコード】脳内免疫細胞における活動情報の時空間解析

堀内 浩，石田 順子，鍋倉 淳一

生理学研究所 生体恒常性発達研究部門

現地開催登壇者プロフィール

6月18日(土)　12:30-13:20
ランチョンセミナー1

Daniel Zajfman



ワイツマン科学研究所 教授
Chair of The Academic Board, The Israel Science Foundation

【略歴】

1959年 - ベルギー生まれ。1979年イスラエルに移住
1983年 - ハイファにあるイスラエル工科大学テクニオン校で物理学を専攻し、学士号を取得
1989年 - 博士号を取得(原子物理学)
1989年 - 1991年 米国イリノイ州アルゴンヌ国立研究所でポスドク
1991年 - ワイツマン科学研究所素粒子物理学部 シニアサイエンティスト(イスラエル)
1997年 - ワイツマン科学研究所素粒子物理学部 助教授(イスラエル)
2001年 - マックス・プランク核物理学研究所 外部メンバー(ドイツ・ハイデルベルク)
2003年 - ワイツマン科学研究所素粒子物理学部 教授(イスラエル)
2005年 - マックス・プランク核物理学研究所所長(ドイツ・ハイデルベルク)
2006年 - 2019年 ワイツマン科学研究所　第10代所長(47歳という史上最年少の所長)
2020年 - イスラエル科学財団の学術委員会議長

6月18日(土)　13:30-14:30
開会式

梶田 隆章



東京大学 宇宙線研究所 付属宇宙ニュートリノ観測情報融合センター 卓越教授／教授

【略歴】

1986年　東京大学理学部附属素粒子物理国際研究センター助手
1988年 - 東京大学宇宙線研究所助手
1992年 - 東京大学宇宙線研究所助教授
1999年 - 東京大学宇宙線研究所教授、同研究所附属宇宙ニュートリノ観測情報融合センター長(2016年まで)
2007年 - 東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構主任研究員兼務(2022年まで)
2008年 - 東京大学宇宙線研究所長(2022年まで)
2015年 - ノーベル物理学賞受賞
2016年 - 東京大学特別栄誉教授
2017年 - 東京大学卓越教授、第24期日本学術会議会員
2020年 - 第25期日本学術会議会員、同会長



原山 優子

JAAS理事／元・理化学研究所理事／元・CSTI議員

【略歴】

1992 - 1997 ジュネーブ大学経済学部 助手
1998 - 2001 ジュネーブ大学経済学部 助教授
2001 - 2002 経済産業研究所 研究員
2002 - 2013 東北大学大学院工学研究科技術社会システム専攻 教授
2006 - 2007 内閣府 総合科学技術会議 非常勤議員
2007 - 2010 Compagnie de Saint-Gobain 外部取締役
2010 - 2012 経済協力開発機構（OECD）科学技術産業局 次長
2013 - 2018 内閣府 総合科学技術・イノベーション会議 常勤議員
2015 - Global Young Academy アドバイザリー・ボード メンバー
2018 - 2019 新エネルギー・産業技術総合開発機構　技術戦略研究センター フェロー
2019 - French National Research Agency 科学アドバイザリー・ボード 委員
2019 - エルゼビア財団 外部取締役
2020 - ORCID 外部取締役
2022 - Global Partnership on AI (GPAI) 運営委員会 委員



船田 元

衆議院議員 総会長／自民党・科学技術基本問題小委員会 委員長

【略歴】

1953年 - 宇都宮市に生まれる。宇都宮大学付属小中学校から 宇都宮高校、
　　慶應義塾大学経済学部に進む
1979年 - 衆議院第35回総選挙に最年少の25歳で初当選
1984年 - 自民党青年局長
1985年 - 総務政務次官
1987年 - 文部政務次官
1989年 - 自民党文教部会長。自民党青年海外協力隊に関する小委員会委員長
1990年 - 衆議院文教委員会委員長。自民党外交部会長（1991年に再任）
1992年 - 国務大臣 経済企画庁長官（39歳最年少）
1998年 - 自由民主党総務会長代理（2008年再任）
1999年 - 自由民主党財務委員長（2006年再任）
2004年 - 国際テロリズムの防止及び我が国の協力支援活動並びにイラク人道復興支援活動に関する特別委員会委員長
2005年 - 自民党憲法調査会会長
2007年 - 科学技術創造立国推進調査会会長
2009年 - 衆議院消費者問題に関する特別委員会委員長
2013年 - 衆議院憲法審査会筆頭幹事。自民党消費者問題調査会会長（現在に至る）。裁判官弾劾裁判所裁判長（現在に至る）
2014年 - 自民党憲法改正推進本部本部長
2017年 - 自民党衆議院議員総会長（現在に至る）
2018年 - 自民党憲法改正推進本部顧問（現在に至る）
2019年 - 自民党科学技術イノベーション戦略調査会顧問（現在に至る）

6月18日(土)　14:40-17:00
シンポジウム
「日本の科学をもっと元気に：イノベーションを産む場を創ろう！」

紺野 大地



東京大学医学部附属病院 老年病科 医師

【略歴】

2007年 - 2009年 山形県立米沢興譲館高等学校
2009年 - 2011年 東京大学教養学部理科二類
2011年 - 2015年 東京大学医学部医学科
2015年 - 2017年 名戸ヶ谷病院 初期研修医
2017年 - 現在　 東京大学医学部附属病院老年病科 医師
2018年 - 2022年 東京大学大学院医学系研究科生殖・発達・加齢医学専攻 博士課程
2018年 - 2022年 東京大学大学院薬学系研究科 薬品作用学教室 外部研究生
2022年 - 現在　 東京大学大学院薬学系研究科 薬品作用学教室 研究員
2022年 - 現在　 東京大学大学院工学系研究科 技術経営戦略学専攻 リサーチャー

福島 邦彦



ファジィシステム研究所 特別研究員(非常勤)
電気通信大学 特別栄誉教授/工学博士

【略歴】

1958年 - 京都大学工学部電子工学科卒．同年 NHK入局.
　　NHKの技術研究所，放送科学基礎研究所(視聴科学研究室)，放送技術研究所など
1989年 - 大阪大学基礎工学部生物工学科(1997年 大阪大学の組織変更により大学院基礎工学研究科システム人間系専攻)・教授
1999年 - 電気通信大学電気通信学部情報通信工学科・教授
2001年 - 東京工科大学・教授
2006年 - 2010年 関西大学・客員教授
現在 - ファジィシステム研究所・特別研究員(非常勤)，通常は東京都町田市の自宅で研究に従事

Franklin Instituteから Bower賞(2021 Bower Award and Prize for Achievement in Science)；科学技術庁長官賞(ネオコグニトロンの研究)；電子情報通信学会業績賞，論文賞，功績賞；IEEE Neural Networks Pioneer Award；APNNA Outstanding Achievement Award；日本神経回路学会論文賞，学術賞；INNS Helmholtz Award；ELM2017 Pioneer Award；2019年度 高柳健次郎賞(高柳健次郎財団)；電気通信大学特別栄誉教授称号；などを受賞.

日本神経回路学会(JNNS)初代会長，名誉会員；INNS(国際神経回路学会)元理事(学会設立時～2005年度)；APNNA(Asia-Pacific Neural Network Assembly)元会長；電子情報通信学会名誉員.

山口 栄一



京都大学 名誉教授

【略歴】

1977年 - 東京大学理学部物理学科卒業
1979年 - 東京大学大学院理学系研究科物理学専攻修士課程修了、理学博士 (東京大学)
1979年 - 日本電信電話公社入社、武蔵野電気通信研究所基礎研究部に赴任
1984年 - 1985年 米国University of Notre Dame客員研究員(インディアナ州サウスベンド市在住)
1986年 - 1998年 NTT基礎研究所主任研究員・主幹研究員
1993年 - 1998年 フランスIMRA Europe招聘研究員として南仏コートダジュールに在住
1999年 - 2003年 経団連21世紀政策研究所主席研究員・研究主幹
2003年 - 2014年 同志社大学大学院教授
2008年 - 2009年 ケンブリッジ大学クレア・ホール客員フェローとして英国ケンブリッジ市に在住
2014年 - 京都大学大学院総合生存学館教授、
2017年 - 産官学連携本部教授を兼務。5社のハイテク・ベンチャー企業を創業。
2020年 - 現在 京都大学名誉教授。立命館大学教授。
2021年 - 現在 みずから創業したオルバイオ(株)代表取締役就任。

畑 恵



作新学院 理事長／学術博士[科学技術政策]
”Galeria du Temps”代表

【略歴】

早稲田大学第一文学部卒。お茶の水女子大学大学院後期博士課程修了、学術博士(科学技術政策)。1984年NHK入局。「夜7時のニュース」を最年少で担当するなど報道、情報番組のキャスターを担当。89年 NHK退局。テレビ朝日系「サンデー・プロジェクト」など報道番組を担当。92年 EC(現EU)の招聘を機に、パリ留学。『ESMC(文化高等経営学院)』で文化政策・文化マネージメントを履修。1995年 参議院選挙に立候補、初当選(～ '01)。99年 作新学院副院長、2008年 理事長就任、現在に至る。

安宅 和人



慶應義塾大学 環境情報学部教授
ヤフー株式会社 CSO(チーフストラテジーオフィサー)(～2022年3月)
Zホールディングス株式会社 シニアストラテジスト(2022年4月～)
データサイエンティスト協会理事

【略歴】

マッキンゼーを経て、2008年からヤフー。前職ではマーケティング研究グループのアジア太平洋地域中心メンバーの一人として幅広い商品・事業開発、ブランド再生に関わる。2012年よりCSO、2022年よりZホールディングス シニアストラテジスト。全社横断的な戦略課題の解決、事業開発に加え、途中データ及び研究開発部門も統括。2016年より慶應義塾SFCで教え、2018年秋より現職。総合科学技術イノベーション会議(CSTI)専門委員、内閣府デジタル防災未来構想チーム座長、教育未来創造会議 委員、新AI戦略検討会議委員ほか公職多数。データサイエンティスト協会理事・スキル定義委員長。一般社団法人 残すに値する未来 代表。イェール大学脳神経科学PhD。著書に『イシューからはじめよ』(英治出版)、『シン・ニホン』(NewsPicks)ほか

平 将明



衆議院議員、自民党広報本部ネットメディア局長・デジタル社会推進本部本部長代理 NFT 政策検討プロジェクトチーム座長

【略歴】

2003年 - 東京青年会議所理事長
2005年 - 経済産業省産業構造審議会基本政策部会民間委員、衆議院議員初当選
2009年 - 衆議院経済産業委員会理事
2010年 - 衆議院決算行政監視委員会理事
2012年 - 自民党情報調査局長、経済産業大臣政務官兼内閣府大臣政務官(第２次安倍内閣)
2013年 - 自民党副幹事長兼情報調査局長
2014年 - 内閣府副大臣(第２次安倍改造内閣)、内閣府副大臣(第３次安倍内閣)(再任)
2016年 - 衆議院環境委員会委員長
2018年 - 自民党内閣第二部会長
2019年 - 衆議院内閣委員会理事、内閣府副大臣(第４次安倍第２次改造内閣)
2020年 - 新型コロナウイルス感染症対策テックチーム事務局長、自民党内閣第二部会長
2021年 - 自民党東京都支部連合会政務調査会長

松尾 泰樹



内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局 局長

【略歴】

2005年 - 文部科学省研究振興局ライフサイエンス課長
2007年 - 文部科学省研究開発局研究開発戦略官
2008年 - 独立行政法人理化学研究所横浜研究所研究推進部長
2010年 - 文部科学省高等教育局学生・留学生課長
2013年 - 文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課長
2014年 - 文部科学省大臣官房参事官
2016年 - 文部科学省大臣官房審議官(高等教育局担当)
2018年 - 文部科学省大臣官房審議官(科学技術・学術政策局担当及び高等教育局担当)、文部科学省大臣官房審議官(科学技術・学術政策局 担当)を経て、文部科学省科学技術・学術政策局長

6月18日(土)　17:15-18:45
ワークショップ
「日本の科学をもっと元気に：科学を楽しむ場を創ろう！」

宇野 毅明



情報・システム研究機構 国立情報学研究所 情報学プリンシプル研究系 教授(研究主幹)

【略歴】

1998年 - 東京工業大学総合理工学研究科博士課程 修了，博士(理学)
1998年 - 東京工業大学経営工学専攻 助手
2001年 - 国立情報学研究所 助教授
2014年 - 国立情報学研究所 教授

現地開催登壇者プロフィール

浜中 雅俊



国立研究開発法人理化学研究所 革新知能統合研究センター 目的指向基盤技術研究グループ
音楽情報知能チーム チームリーダー

【略歴】

1974年 - 東京都生まれ
2003年 - 筑波大学大学院工学研究科博士課程 修了、博士(工学)
2003年 - 産業技術総合研究所情報処理研究部門 客員研究員(日本学術振興会特別研究員-PD、科学技術振興機構さきがけ研究員)
2007年 - 筑波大学大学院システム情報工学研究科 講師
2014年 - 京都大学大学院医学研究科 研究員
2017年 - 国立研究開発法人理化学研究所 革新知能統合研究センター チームリーダー

河上 薫



アンサンブルピアニスト
JAAS 理事

【略歴】

日本セヴラック協会、日本ヒナステラ協会、日本カプースチン協会、東京国際芸術協会、grandGroove、NewAge3pieces、取手市音楽家協会。日本クラシック音楽コンサート審査員賞、国際ネオクラシックコンクールファイナリスト、日本アンサンブルコンクール入賞、ほかコンクール入賞多数。クラシック音楽に留まらずラテンやジャズ、民族音楽などのレコーディングにも参加。Tokyoソイソース、新潟ジャズフェスティバル、TVKテレビ出演、東京FM、FMフジ、横浜FM、他メディア出演。みなとみらいホールにてラフマニノフ2台ピアノ組曲№2・op17演奏、オペラシティにてバルトーク演奏、サントリーホールブルーローズにてバッハ演奏、ほか各地ホールや客船、パーティ演奏多数。

若井 有里亜



ソプラノ歌手

【略歴】

4歳よりピアノを始める。東京音楽大学付属高校を経て、東京音楽大学声楽専攻卒業。東京ミュージック＆メディアアーツ尚美ディプロマコース声楽部門修了。茨城県芸術祭、茨城県新人演奏会等出演。その後、ニューヨークにてメトロポリタン歌劇場のコーチ陣より指導、助言を受け、またイタリア・マントヴァにて研鑽を積む。宗教曲ではベートーベン作曲「ミサソレムニス」のソリストを務めたほか、各地でのリサイタル、豪華客船での演奏ほか、学校や子供の為のオーケストラコンサート、映画の劇中歌録音等、様々な活動を行っている。2019年にはカナダ・ビクトリアにてソロリサイタルを行い、高評を仰ぐ。
取手少年少女合唱団指導者。
武田陽子、田村麻子の各氏に師事。

6月19日(日)　10:30-12:00
パネルディスカッション1
「日本の科学をもっと元気に：誰もが科学する社会を創ろう！」

岩崎 渉



東京大学大学院新領域創成科学研究科先端生命科学専攻 教授
第25期日本学術会議若手アカデミー 代表

【略歴】
2005年 - 東京大学理学部生物化学科 卒業
2007年 - 東京大学大学院新領域創成科学研究科情報生命科学専攻修士課程 修了
2009年 - 東京大学大学院新領域創成科学研究科情報生命科学専攻博士後期課程 修了、博士(科学)
2009年 - 東京大学大学院新領域創成科学研究科情報生命科学専攻 助教
2011年 - 東京大学大気海洋研究所地球表層圏変動研究センター生物遺伝子変動分野 講師
2014年 - 東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻 准教授
2016年 - 第23期日本学術会議特任連携会員、若手アカデミー会員
2017年 - 第24期日本学術会議連携会員、若手アカデミー幹事
2017年 - グローバルヤングアカデミー 会員
2019年 - 日本バイオインフォマティクス学会 会長
2020年 - 第25期日本学術会議連携会員、若手アカデミー代表
2021年 - 東京大学大学院新領域創成科学研究科先端生命科学専攻 教授

岸村 顕広



九州大学大学院工学研究院 応用化学部門(分子) 准教授/総長補佐

【略歴】
2000年 - 東京大学工学部化学生命工学科 卒業
2002年 - 東京大学大学院工学系研究科化学生命工学専攻修士課程 修了
2005年 - 東京大学大学院工学系研究科化学生命工学専攻博士課程 修了
2005年 - 東京大学大学院工学系研究科マテリアル工学専攻 CREST 博士研究員
2006年 - 東京大学ナノバイオ・インテグレーション研究拠点 特任助手
2007年 - 東京大学大学院工学系研究科マテリアル工学専攻 助教
2010年 - スイス連邦工科大学ローザンヌ校 客員講師
2013年 - 九州大学 大学院工学研究院 応用化学部門(分子) 准教授
2016年 - 第23期日本学術会議特任連携会員、若手アカデミー会員
2017年 - 第24期日本学術会議連携会員、若手アカデミー代表
2020年 - 第25期日本学術会議連携会員、若手アカデミー会員

現地開催登壇者プロフィール

森 章



東京大学先端科学技術研究センター 教授

【略歴】

1999年 - 京都府立大学農学部林学科 卒業
2001年 - 京都大学大学院農学研究科地域環境科学専攻修士課程 修了
2004年 - 京都大学大学院農学研究科地域環境科学専攻博士課程 修了、博士(農学)
2003年 - 日本学術振興会海外特別研究員
2005年 - サイモンフレーザー大学 博士研究員(日本学術振興会海外特別研究員)
2008年 - 横浜国立大学大学院環境情報研究院 特任教員(助教)
2010年 - カルガリー大学 訪問研究員
2011年 - 横浜国立大学大学院環境情報研究院 准教授
2014年 - サイモンフレーザー大学 訪問研究員
2016年 - ウィーン天然資源大学 訪問研究員
2017年 - 第24期日本学術会議連携会員、若手アカデミー会員
2020年 - 第25期日本学術会議連携会員、若手アカデミー会員
2021年 - 横浜国立大学大学院環境情報研究院 教授
2022年 - 東京大学先端科学技術研究センター 教授

髙瀬 堅吉



中央大学文学部 教授

【略歴】

2002年 - 立命館大学文学部哲学科心理学専攻 卒業
2004年 - 横浜市立大学大学院医学研究科修士課程医科学専攻 修了
2010年 - 筑波大学大学院人間総合科学研究科感性認知脳科学専攻 博士(行動科学)取得
2004年 - 横浜市立大学医学部医学科生理学教室 助手
2005年 - 公立大学法人横浜市立大学医学部医学科生理学教室 助手
2008年 - 姫路獨協大学薬学部医療薬学科生理学教室 講師
2011年 - 東邦大学医学部医学科解剖学講座微細形態学分野 助教
2013年 - 東邦大学医学部医学科解剖学講座微細形態学分野 講師
2014年 - 自治医科大学医学部医学科心理学研究室 教授
2016年 - 自治医科大学大学院医学研究科総合教育学専攻科 教授
2017年 - 第23期日本学術会議特任連携会員、若手アカデミー会員
2017年 - 第24期日本学術会議連携会員、若手アカデミー幹事
2017年 - 自治医科大学大学院医学研究科博士課程発達生物心理学専攻科／修士課程発達生物心理科学専攻科 教授
2020年 - 第25期日本学術会議連携会員、若手アカデミー会員
2022年 - 中央大学文学部人文社会学科心理学専攻／文学研究科心理学専攻 教授

柿沼 緑



日本放送協会クリエイターセンター第１制作センター(新領域)ディレクター

【略歴】

2011年 - 東京藝術大学映像研究科メディア映像　修了
2011年 - 日本放送協会　入局
2011年 - 日本放送協会 山口放送局
2016年 - 日本放送協会 制作局 青少年教育番組部
2019年 - 日本放送協会 制作局 第６制作ユニット(新領域開発)
2022年 - 日本放送協会 クリエイターセンター 第１制作センター(新領域)

片野 晃輔



Wild Scientist

【略歴】

1997年新潟生まれ。母親の乳がんがきっかけで分子生物学に関心を持ち、高校時代は企業や大学のラボを利用し個人で研究していた。高校卒業後、MITメディアラボ研究員に。同研究所のSynthetic Neurobiologyグループで組織内でのゲノムシーケンス手法開発に携わる。同研究所のCommunity Biotechnologyグループでは低コストかつ世界中どこでも自作し使用可能な実験機器、手法の開発や、生物学研究の民主化の研究を行う。 帰国後、Sony CSLのSynecocultureグループ、一般社団法人シネコカルチャーにて拡張生態系の研究に携わる。現在は「生命の連環を起こす」という思想を軸に研究活動、企業への助言や造園ユニットとしての造園/空間設計など分野問わず活動している。

高橋 祥子



株式会社ジーンクエスト 代表取締役
株式会社ユーグレナ 執行役員バイオインフォマティクス事業担当

【略歴】

1988年 - 大阪府生まれ
2010年 - 京都大学農学部 卒業
2013年 - 東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程在籍中に株式会社ジーンクエスト起業
2015年 - 東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程 修了
2018年 - 株式会社ユーグレナ執行役員バイオインフォマティクス事業担当

6月18日(土)　12:10-13:00
ランチョンセミナー2
「日本の科学をオープンに！」

大隅 典子



東北大学副学長(広報・ダイバーシティ担当)、附属図書館長、
東北大学 大学院医学系研究科 脳神経科学コアセンター コアセンター長、
発生発達神経科学分野 教授
日本版AAAS設立準備委員会アドバイザー

【略歴】

1989年 - 東京医科歯科大学大学院歯学研究科博士課程修了(歯学博士)
1989年 - 東京医科歯科大学 顎口腔総合研究施設 顎顔面発生機構研究部門 助手
1996年 - 国立精神神経センター・神経研究所室長
1998年 - 東北大学大学院医学系研究科 器官構築学分野 教授
2002年 - 同大学同研究科 附属創生応用医学研究センター 形態形成解析分野 教授
2006年 - 2017年 東北大学総長特別補佐(男女共同参画担当)
2008年 - 2010年 東北大学ディスティングイッシュトプロフェッサー
2010年 - 現在 同大学大学院医学系研究科 附属創生応用医学研究センター 脳神経科学コアセンター長
2015年 - 2019年 同大学同研究科附属創生応用医学研究センター長
2018年 - 現在 同大学副学長、附属図書館長

2002年 - 日本神経科学会理事
2013年 - 2014年 日本分子生物学会理事長
2016年 - 日本精神神経薬理学会理事
2017年 - 2019年 日本神経科学会副会長
2020年 - 日本精神神経薬理学会理事長



小泉 周

自然科学研究機構 特任教授

【略歴】

1997年 - 2002年 慶應義塾大学医学部 生理学教室 助手
2002年 - 2007年 ハーバード大学医学部 マサチューセッツ総合病院 研究員
2007年 - 2013年 自然科学研究機構 生理学研究所 広報展開推進室 准教授
2010年 - 文部科学大臣表彰科学技術賞（理解増進部門）
2013年 - 現在 自然科学研究機構 研究力強化推進本部 特任教授（統括URA）



林 和弘

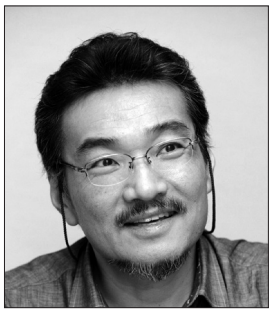
文部科学省 科学技術学術政策研究所（NISTEP）データ解析政策研究室 室長

【略歴】

1998年 - 2004年 社団法人 日本化学会 学術情報部（旧編集第2部）
2004年 - 2012年 公益社団法人 日本化学会 学術情報部 課長
2004年 - 2012年 Chemical Society of Japan Journal Manager
2015年 - 2016年 科学技術・学術政策研究所 科学技術動向研究センター センター長補佐
2012年 - 2021年 文部科学省科学技術政策研究所 科学技術動向研究センター 上席研究官
2013年 - 2021年 科学技術・学術政策研究所 科学技術動向研究センター 上席研究官（科学情報分析ユニットリーダー）
2021年 - 現在 文部科学省科学技術・学術政策研究所 データ解析政策研究室 室長
現在日本学術会議特任連携会員、G7オープンサイエンスWG専門委員、日本医学雑誌編集者会議（JAMJE）組織委員、AMED科学技術調査員等の任にも就く

プロフィール

6月19日（日） 13:10-14:10
基調講演



柳沢 正史

筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構 機構長・教授
テキサス大学サウスウェスタン 医学センター 客員教授

【略歴】

1985年 - 筑波大学医学専門学群卒業、同大大学院進学、岡崎国立共同研究機構基礎生物学研究所派遣（1986年まで）
1988年 - 筑波大学大学院医学研究科 博士課程修了（医学博士）
1989年 - 1991年 筑波大学基礎医学系薬理学 講師
1991年 - 1991年 京都大学医学部第一薬理学 講師
1991年 - 1996年 テキサス大学サウスウェスタン医学センター 准教授 兼 ハワードヒューズ医学研究所 准研究員
1996年 - 2014年 同大学 教授 兼 同研究所 研究員
1998年 - 2014年 The Patrick E. Haggerty Distinguished Chair in Basic Biomedical Science, UTSW
2001年 - 2007年 JST/ERATO「柳沢オーファン受容体プロジェクト」総括責任者（2007年3月まで）
2010年 - 2014年 筑波大学 内閣府 最先端研究開発支援プログラム（FIRST） 兼任教授・中心研究者
2012年 - 現在 筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構 機構長・教授
2014年 - 現在 テキサス大学サウスウェスタン医学センター 客員教授

6月19日(日)　14:10-16:10
パネルディスカッション2
「日本の科学をもっと元気に：元気に科学する場を創ろう！」

佐貫 理佳子



京都工芸繊維大 助教／卓越研究員第一期生 博士(医学)(京都大学大学院)

【略歴】
2010年 - 大阪バイオサイエンス研究所 JST CREST特別研究員
2011年 - 大阪バイオサイエンス研究所 研究員
2012年 - 大阪大学蛋白質研究所 分子発生学 助教
2015年 - 大塚製薬株式会社 研究員
2017年 - 京都工芸繊維大学 助教

宮川 剛



藤田医科大学 研究推進本部 総合医科学研究部門 医科学研究センター システム医科学研究部門 教授
JAAS・理事、JAAS・研究環境改善WGリーダー

【略歴】
1993年 - 東京大学文学部心理学科卒業
1995年 - 東京大学大学院人文科学研究科修士課程心理学専攻修了
1997年 - 東京大学大学院人文社会系研究科博士課程心理学専攻修了 心理学博士(東京大学)
1997年 - 理化学研究所 脳科学総合研究センター 研究員
1998年 - 米国 国立精神衛生研究所(NIMH) ポスドク研究員
1999年 - 米国 バンダービルト大学 分子神経科学研究センター 薬理学科 助教授(研究)
2001年 - 米国 マサチューセッツ工科大学 ピコワー学習・記憶センター 主任研究員
2003年 - 京都大学医学研究科 先端領域融合医学研究機構 助教授
2007年 - 自然科学研究機構 生理学研究所 行動様式解析室 客員教授 室長(2017年3月まで)
2007年 - 藤田保健衛生大学 総合医科学研究所 システム医科学研究部門 教授
2018年 - 藤田医科大学(大学の名称変更による)総合医科学研究所 システム医科学研究部門 教授
2022年 - 藤田医科大学 医科学研究センター(組織名称変更による) システム医科学研究部門 教授

斉藤 卓也



文部科学省 科学技術・学術政策局 人材政策課長

【略歴】
1970年 - 神奈川県出身。東京大学工学部電気工学科卒業
1995年 - 科学技術庁入庁
2004年 - 文部科学省 研究振興局 ライフサイエンス課課長補佐
2006年 - 外務省 在オーストラリア日本大使館一等書記官(科学技術、医療、環境担当)
2009年 - 文部科学省 科学技術・学術政策局 政策課課長補佐、政策科学推進室長
　　文部科学省緊急災害対策センター併任
2011年 - 文部科学省会計課予算企画調整官
2013年 - 文部科学省 大臣官房政策課 評価室長
2014年 - 内閣府大臣官房(山口国務大臣秘書官)
2015年 - 文部科学省 研究振興局 基礎研究推進室長、
2017年 - 国立大学法人徳島大学副学長、
2019年 - 文部科学省科学技術・学術政策局産業連携・地域支援課長、
2021年 - 文部科学省・人材育成課長

現地開催登壇者プロフィール

須田桃子



科学ジャーナリスト / NewsPicks副編集長

【略歴】

2001年毎日新聞社入社。主に科学環境部に所属し、科学、医療、科学技術行政などを取材。『捏造の科学者　ＳＴＡＰ細胞事件』で2015年に大宅壮一ノンフィクション賞、科学ジャーナリスト大賞。2冊目の単著に約1年間の米国取材を基にした『合成生物学の衝撃』。日本の科学の衰退を追った長期連載「幻の科学技術立国」で取材班キャップを務め、同連載を書籍化した『誰が科学を殺すのか』で2020年に科学ジャーナリスト賞。 同年4月から現職。

室生 暁



東京医科歯科大学 臨床解剖学分野 助教
JAAS 研究環境改善WGメンバー

【略歴】

2014年3月東京医科歯科大学医学部卒業、医師、博士(医学)。初期臨床研修修了後、大学院博士課程に進学。東京医科歯科大学にて解剖学の研究・教育に従事し、同大学特任助教を経て2020年4月より現職。研究テーマは骨盤底筋、直腸肛門管、膵頭神経叢、腎筋膜、前十字靱帯など。2021年度日本解剖学会奨励賞受賞。専門は肉眼解剖学、臨床解剖学。

平林 晃



衆議院議員

【略歴】

1989年3月　愛知県立旭丘高等学校 卒業
1993年3月　東京工業大学 工学部 情報工学科 卒業
1995年3月　東京工業大学 大学院 情報理工学研究科 修士課程 修了
1995年4月　東京工業大学 大学院 情報理工学研究科 助手
1999年12月　博士(工学、東京工業大学)
2000年9月　山口大学工学部講師(後に助教授、准教授)
2004年9月　スイス連邦工科大学ローザンヌ校 留学
2009年8月　インペリアル・カレッジ・ロンドン 留学
2013年3月　立命館大学情報理工学部教授(21年3月退職)
2021年10月　衆議院議員に当選

鈴木 健吾



株式会社ユーグレナ 執行役員CTO

【略歴】

1979年生まれ。2005年東京大学大学院農学生命科学研究科修士課程在学中に株式会社ユーグレナの設立に携わり、共同創業者の一人として研究開発の責任者を担当して現在に至る。微細藻類の一種であるユーグレナの大量培養に関連した技術開発を中心に手掛ける。2016年、博士(農学)学位取得。2019年、博士(医学)学位取得。
理化学研究所 微細藻類生産制御技術研究チーム チームリーダー、マレーシア工科大学 マレーシア日本国際工科院 客員教授、東北大学未来型医療創造卓越大学院プログラム特任教授(客員)を務める。
著書に『ミドリムシ博士の超・起業思考』(日経BP)がある。

JAAS 代表理事

小野 悠

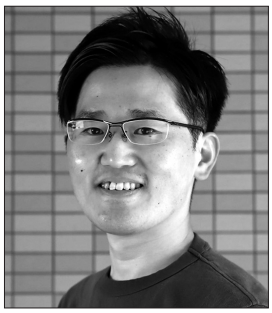


豊橋技術科学大学大学院工学研究科・准教授/学長補佐

【略歴】

2010年 - 東京大学工学部都市工学科 卒業
2012年 - 東京大学工学系研究科都市工学専攻修士課程 修了
2016年 - 東京大学工学系研究科都市工学専攻博士課程 修了、博士(工学)
2016年 - 愛媛大学防災情報研究センター 特定助教、松山アーバンデザインセンター ディレクター
2017年 - 愛媛大学防災情報研究センター 特定准教授、松山アーバンデザインセンター 副センター長
2017年 - 第24期日本学術会議連携会員、若手アカデミー会員
2017年 - 豊橋技術科学大学大学院工学研究科 講師
2020年 - 第25期日本学術会議連携会員、若手アカデミー幹事
2022年 - 豊橋技術科学大学大学院工学研究科 准教授

馬場 基彰



京都大学白眉センター 特定准教授

【略歴】

2004年 - 大阪大学基礎工学部電子物理科学科 卒業
2006年 - 大阪大学基礎工学研究科物質創成専攻修士課程 修了
2009年 - 大阪大学基礎工学研究科物質創成専攻博士課程 修了
2009年 - 大阪府立大学 電子物理工学分野 博士研究員(特定領域研究)
2009年 - パリ第７大学＆ＣＮＲＳ 博士研究員
2012年 - 大阪大学大学院理学研究科 日本学術振興会特別研究員(PD)
2015年 - 大阪大学博士課程教育リーディングプログラム インタラクティブ物質科学・カデットプログラム 特任講師(常勤)
2017年 - 科学技術振興機構 さきがけ「量子の状態制御と機能化」領域 さきがけ研究者
2019年 - 京都大学大学院理学研究科 特定講師(さきがけ)
2021年 - 京都大学白眉センター 特定准教授、京都大学大学院理学研究科 連携准教授

第１回総会・キックオフミーティング実行委員会/JAAS理事

北原 秀治



東京女子医科大学 先端生命医科学研究所 准教授

【略歴】

1999年 - 日本歯科大学 卒業
1999年 - 東京女子医科大学 東医療センター
2008年 - 東京女子医科大学大学院医学研究科 修了
2008年 - 東京女子医科大学 医学部 解剖学・発生生物学講座 助教
2014年 - ハーバード大学医学部マサチューセッツ総合病院 博士研究員
2017年 - 一般社団法人海外日本人研究者ネットワーク 理事
2018年 - 東京女子医科大学 医学部 解剖学講座 講師・国際交流委員会室 副室長
2019年 - 一般社団法人CancerX 設立時社員、理事(2021-2022)
2020年 - 一般社団法人 INCLUSIVE ACTION FOR ALL 理事
2021年 - 東京女子医科大学 先端生命医科学研究所 特任准教授

JAAS
日本科学振興協会

2021年度 年次報告書

特定非営利活動法人
日本科学振興協会

代表理事あいさつ

代表理事　小野 悠



ＪＡＡＳは、科学者だけでなく、科学にさまざまな形で関わる人、関わりたいと思う人が参加できる新しい科学コミュニティを目指しています。科学がわたしたちの好奇心をかきたてるワクワクするものとして、また、暮らしや文化を豊かにしてくれるものとして、社会に力強く根を張り、未来の可能性を広げてくれることを願っています。わたしたちの挑戦は、草の根的に集まった多様な人々が、科学をそれぞれの立場から語り、実践することで一人ひとりの想いを大きな力に変えていく場をつくることです。それがＪＡＡＳのブランド、ひいては世界に誇れるコミュニティモデルになると信じています。ＪＡＡＳが描く未来のありたい姿と実現に向けた取り組みを、引き続きさまざまな関係者のみなさまとの対話・協働を通じて形づくっていきたいと考えています。

代表理事　馬場 基彰

ＮＰＯ法人を速やかに作りたいのであれば、行政書士にそれなりのお金を払い、適切な手順に従って進めていけば、数ヶ月で作ることができたようです。しかし、ＪＡＡＳ設立では、先に数百名を集めるという手順をとり、結果として、ＮＰＯ法人設立に約１年を掛けました。名称、定款、設立趣旨書、理事などを、それなりの合意の下で決めてきたからです。振り返ってみれば、多様な人々との対話と協働の第一歩として、ＮＰＯ法人（日本版ＡＡＡＳ）設立を最初の目標に設定し、それを達成したということかと思います。とはいえ、各自が目指すもの，やりたいことは多種多様であり、それらを多様な状態のまま、様々な活動を実施・支援していくのがＪＡＡＳという団体です。「日本の科学をもっと元気に」という看板の裏側で最初に待ち構えているのは、自分とは異なる考えを尊重するということではないかと思います。



副代表理事

加藤 奈々美　　諏訪 智巳　　林 愛子

理事

大賀 哲	大竹 暁	太田 航	春日 匠	河上 薫	北原 秀治
清原 康介	黒ラブ教授	住井 英二郎	田中 智之	田中 悠平	並木 重宏
原山 優子	坂内 博子	松居 彩	松山 奈穂子	峰 宗太郎	宮川 剛
三輪 秀樹	村瀬 亮太	森 章	森 真由美	山形 方人	山田 祐樹

監事

榎木 英介　　岸村 顕広　　中村 多美子

法人設立までの"流れ"

2021年2月　日本版AAAS設立準備委員会発足



「日本の科学をもっと元気に！」という想いから、対話を通じた科学の振興を行うボトムアップ型の組織として日本科学振興協会(Japanese Association for the Advancement of Science; JAAS)を設立するため、2021年2月に日本版AAAS設立準備委員会が正式に発足しました。

2021年7月　正式名称 日本科学振興協会(JAAS) に決定

設立準備委員会では、出来るだけ多くの人々からの声を取り入れて名称を決めるためにはどのようにすればいいのか、対話を重ねてまいりました。そして公募を行い、投票の結果JAASに決定しました。発足から5か月間ほどの時間がかかりましたが、まさしくこの組織の理念である "対話" と "協働" が体現できた活動となりました。

JAAS 日本科学振興協会

JAASのロゴは広い世界との交流やネットワークの大切さ、互いを認め合い多様性を尊重する世界観をイメージしています。 左側の図案は多様な人々がつながり合うネットワークの姿を、カーブを大きく伸ばした英字の「J」はネットワークを支える構図になっています。

2022年2月　NPO法人 日本科学振興協会(JAAS) 設立



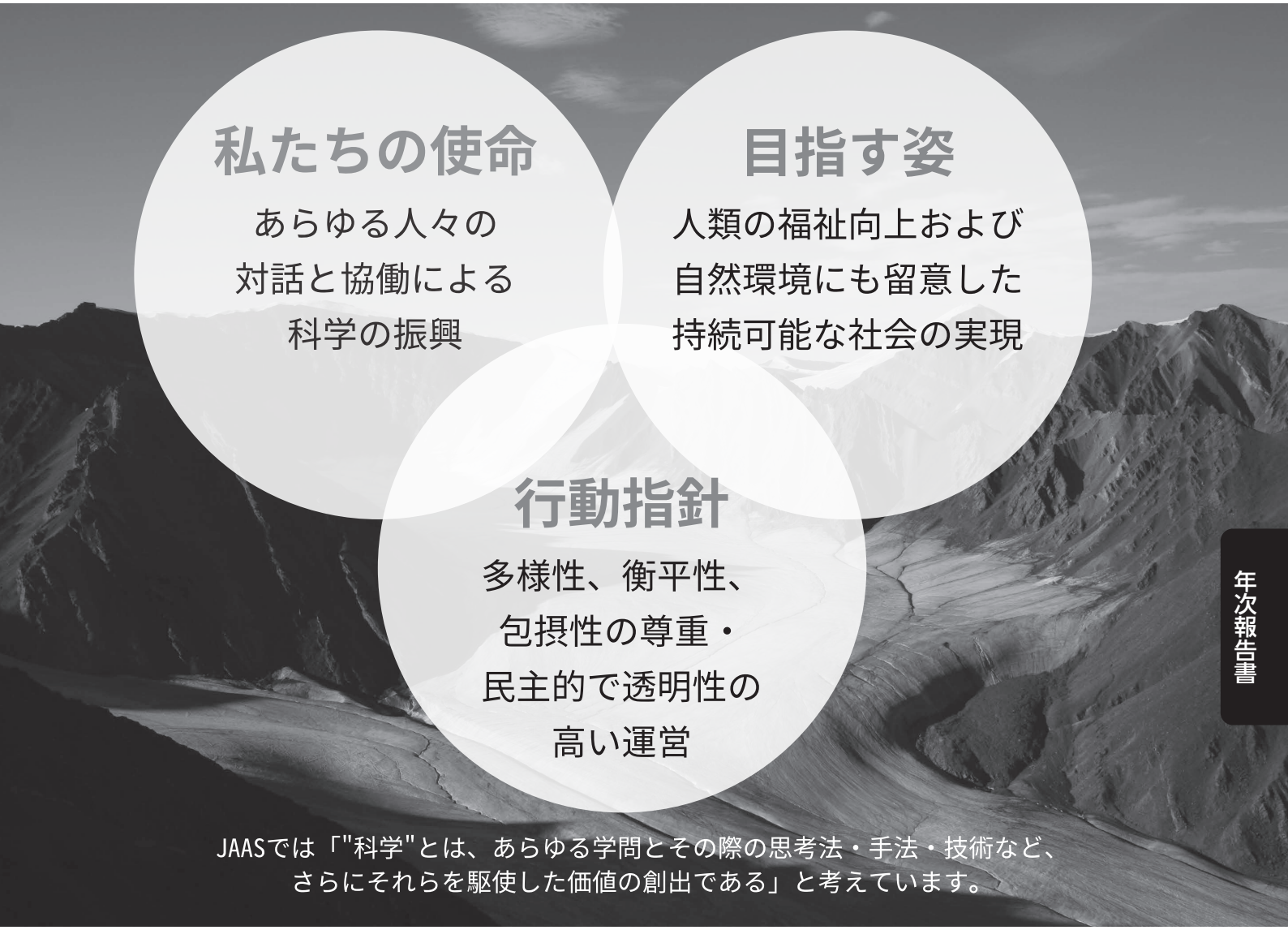


2022年2月22日付けでNPO法人日本科学振興協会（JAAS）が設立されました。ご支援を賜りました皆様に、厚く御礼を申し上げます。

活動理念

日本の科学を、もっと元気に！

私たちが直面するさまざまな課題を解決するためには科学技術が欠かせません。明るい未来の礎を築くためには科学の振興に意識を持つ多様な立場の人々が対話・協働し、これからの科学のあり方を検討し実現する必要があります。そのために必要になるのが、分野、組織、職種・職階、国籍・民族、世代の垣根を越え、科学振興に意欲を持つあらゆる人々が参加できる場。そのような場をJAASがつくり、ともに科学の振興と発展に貢献していきます。



JAASでは「"科学"とは、あらゆる学問とその際の思考法・手法・技術など、さらにそれらを駆使した価値の創出である」と考えています。

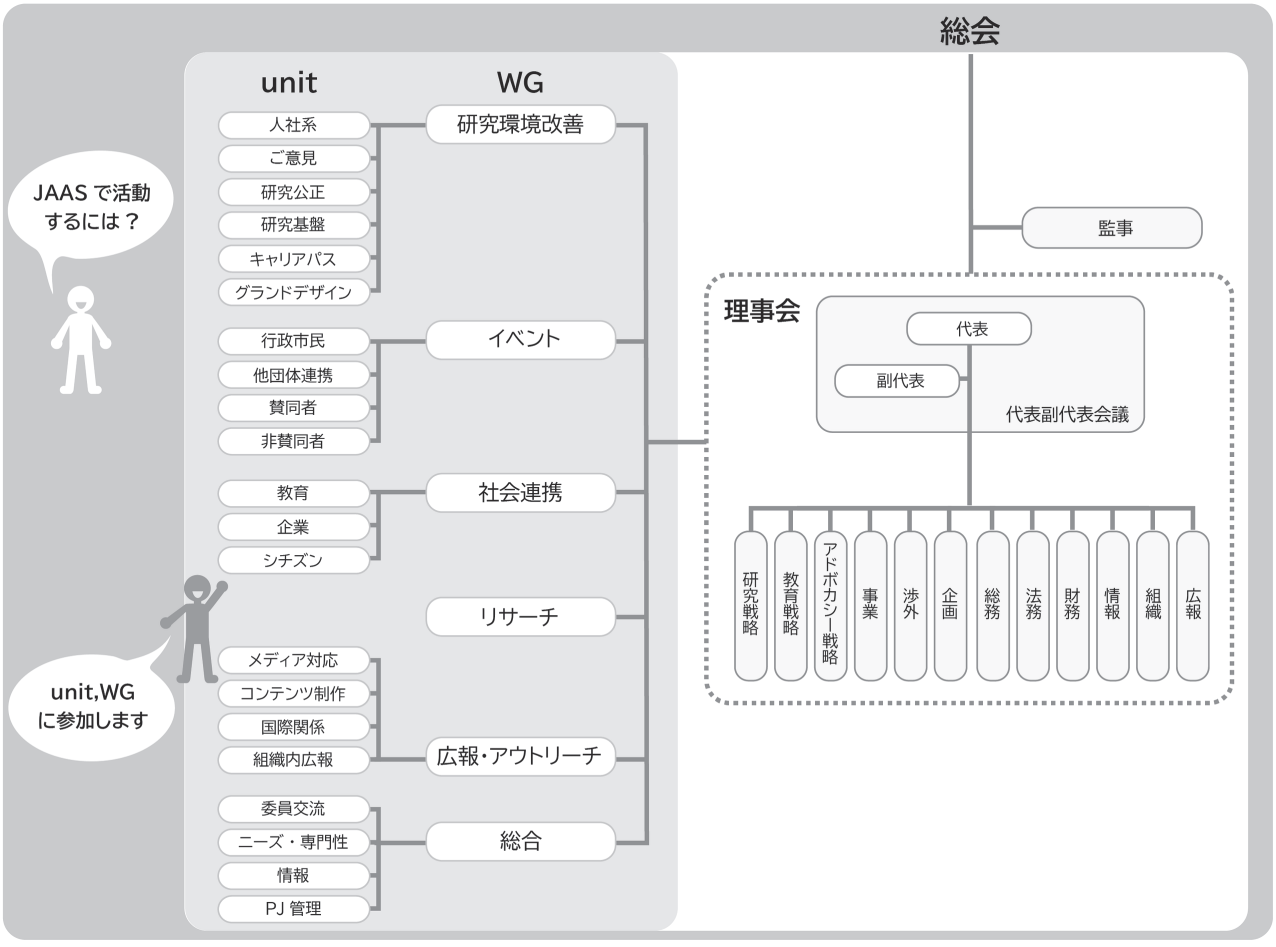
活動内容

- 意見交換会などの対話イベントの実施
- 科学教育・研究開発の体制・制度改善に関する社会への提言および働きかけ
- 科学の振興に関わる情報の収集と公開
- 科学の振興に関する調査の実施および活用
- 国内外の関係団体との連携や人材交流の推進　　など

ＪＡＡＳの活動

活動の場＝ワーキンググループ（WG）

JAASには日常的な活動の場としてワーキンググループ（WG）という枠組みがあり、「研究環境改善 WG」「イベント WG」「社会連携 WG」「リサーチ WG」「広報アウトリーチ WG」「総合WG」という６つのWGが活動しています。正会員は WG に所属し、志を同じくするメンバーとともに日本の科学を元気にするための活動を進めることができます（２つ程度のWGに所属するメンバーが多いです）。さらに、WG内にはユニット（unit）があり、各WG が掲げる目的を実現するために具体的な取り組みを企画し、実際に活動していくことができます。 WGへの参加は強制ではなく、あくまでも任意です。WGに所属していない方でも、会員同士の交流イベントや、JAASの公式イベントに参加できるほか、有志で新たな活動を始めることも可能です。



主なコミュニケーションツール

Slack（スラック）：
ほぼすべての活動は ここから始まります！ オンラインにてテキストベース （文字や絵文字） でやり取りのできるチャットツールです。 登録を希望した正会員全員が入れる「全体ワークスペース」 と、WGごとに分かれた 「WGワークスペース」 があります。

Zoom（ズーム）：
オンラインにて複数人数でのビデオ通話が可能なツールです。ミーティングの都度、メールやSlackを介して、主催者より案内 （参加用リンク） が 送られます。

※ Slack の利用規約に基づき 16 歳未満の方は対象外ですのでご了承ください。

研究環境改善ＷＧ

誰もが元気に科学に取り組むことのできる環境。それを日本で実現します。

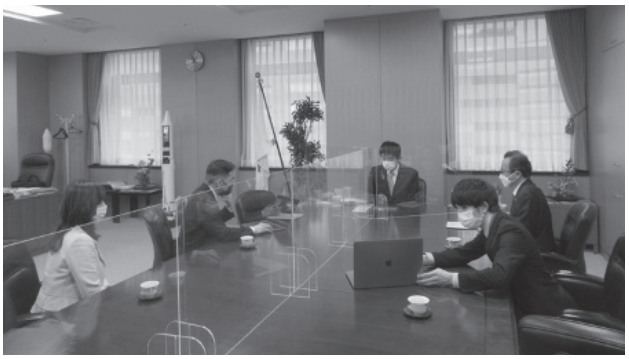
目的

日本の科学を取り巻く環境・仕組みの改善を目指します。特に、日本の科学の危機の大きな原因と考えられているキャリアパス問題、基盤的研究費の問題などについて、サステイナブルなグランドデザインを検討・提案し、抜本的改善を試みます。





上：企画ポスター　下：科学技術政策担当大臣への提言の手交
https://jaas.science/2022/04/26/10_trillion_fund_report/



組織構成

- **グランドデザイン検討unit：**
  日本の研究力低下の要因の分析や、日本の科学技術が目指すものを議論し、グランドデザインを検討しています。政治家や官僚などの科学行政に関わる方々、マスメディアや一般市民の方々との対話を通じてのアドボカシー活動も行います。
- **研究基盤検討unit：**
  研究基盤の理想像を描いたり、現状の研究基盤を明らかにしていきます。また、理想像を目指す上での手段・経路を検討し、容易に理解することができる提言としてまとめていきます。
- **キャリアパス検討unit：**
  研究人材の多様なキャリアパスの実現を目標とし、シンクタンク的な機能を担い、その実現に向けた取り組みを行います。
- **人文社会系unit：**
  人文社会科学系の視点からの研究環境改善や、人社系の社会的価値を高めるための活動として、人社系勉強会、人社系異分野交流会などを実施します。
- **研究公正推進unit：**
  社会と広く対話することを通じて、研究者に求められる理想的な姿勢を明らかにしていきます。研究者が社会から信頼を得る上で必要な公正な姿勢を表す「研究者の行動規範」を提言します。

活動実績

研究環境の問題や背景をゼロベースから議論し、改善することを目的とするグランドデザイン検討unitが全般的な議論を行っています。特に、政府が提案し国会や国民の間でも議論が高まっている「10兆円規模の大学ファンド」と地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージの使途について、これまでのこのunitでの議論もふまえ、2022年4月に提言を発出しました。国内大学での科学研究や教育のための予算や人材支援についての提言の考え方をご理解いただき、有効な施策に結びつけることを目的として、政府関係者、国会議員、大学関係者などとの対話を通じたアドボカシー活動を実施しました。また、キャリアパス検討unitでは、科学関係人材のキャリアパスの諸問題についての内部議論を深めるとともに、学生団体BEASTとともに博士課程後のキャリアを考えるオンラインイベントを開催しました（2021年11月13日）。人文社会系unitでは、人文社会科学系分野の研究環境課題の抽出や解決策の模索に取り組んでおり、人社系unit勉強会を9回、異分野交流会を1回開催しました。研究公正推進unitでは、社会と広く対話することを通じて、研究者に求められる理想的な姿勢を明らかにすることを目的としており、研究公正に関係するいくつかの外部イベントに構成員が参加することで問題の議論を行いました。研究基盤検討 unitでは、研究設備の共用や研究支援人材の活用など、現状の研究基盤に関わる様々な問題を改善することを目的として議論を進めています。

イベントWG

『全部一人で出来なくてもいい』
やれることから、何より自分自身が楽しみながらイベントを開催します！

目的

イベントWGでは、JAASの使命である対話を通じた科学技術の振興を目指し、対話の場として科学をテーマとする様々なイベントを企画・開催していきます。科学に関わるすべての人々が対話し、また科学技術の振興のために何をするべきかを議論することで、仲間を集めながら実際に行動することを促します。さらに、イベントの具体的なアイデアや動機をもつ方々が、実際に企画・開催していくための受け皿としても活動していきます。



2021.04.04 第 1 回 意見交換会の様子

組織構成

- **unit 1（賛同者との交流）：**
JAASを応援してくださる方々との交流の場を設け、本会への会員登録や継続的な企画への参加を促すことを目的としています。定期的な活動報告も兼ねた勉強会等を実施することで、JAAS独特の経験をご提供したいと考えています。

- **unit 2（非賛同者との交流）：**
本会への参与まで踏み切れていない方やネガティブな印象をおもちの方との交流により、団体としての改善点などを模索しています。Twitterなどのsnsで寄せられた本会へのコメントを基に、コメント投稿者との意見交換会を定期的に実施しています。（※後述の「その他の活動」をご覧ください）

- **unit 3(行政/企業/市民/教育関係者との交流)：**
領域別 / 超領域的なイベントを開催し、それぞれの課題やニーズを聴取します。科学そのものの楽しさや科学に携わる様々な「人・職業」の魅力を発信することにより、異分野理解の促進や将来の科学人材の増加を目指します。

活動実績

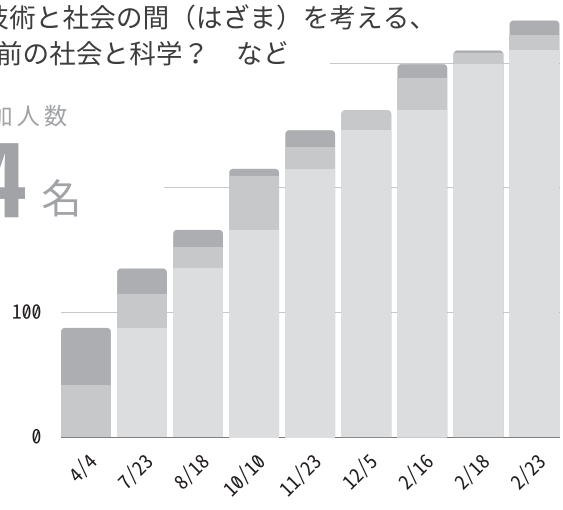


2021.11.13
博士課程後のキャリアを考えるオンラインイベント
（学生団体BEAST、JAAS研究環境改善WG 等と共催）

＜公開研究会（講演会 ＋ パネルディスカッション）＞
テーマ例：宗教と科学、非営利組織のガバナンス、
科学教育について、など
（JAAS 社会連携WGとの共催）

＜意見交換会（対話イベント）＞
2021年度に 計9回の対話を実施
テーマ例：第6期科学技術・イノベーション基本計画、
科学技術と社会の間（はざま）を考える、
100年前の社会と科学？ など

延べ参加人数
334 名



年次報告書

社会連携ＷＧ

「やりたいけど、一人ではできなかったこと」をJAASで。

目的

文字通り、企業や社会と連携をしながら、日本の科学、研究を活性化させるためのWGです。

研究を科研費だけではなく、もっと企業から、またはシチズンサイエンス、クラウドファンディングからの新しい研究費の流れを活性化できないか。
企業としてもアカデミーとよりうまくつながることで、ビジネスを活性化できないか、キャリアパスとして活性化できないか、を目指します。
またシチズンサイエンスの活性化、研究者観点からの教育コンテンツはできないか、様々なミッションがてんこ盛りなのですが・・・
様々な事が議論されましたが・・。初年度は、予算やマンパワーとの兼ね合いにより、出来る事から着々とを、モットーに、現時点では大きく３つのunitに集約させて、動いております。

組織構成

- **シチズンサイエンスunit：**
  シチズンサイエンスの実践法の浸透、持続した活動として定着するための議論や提言をめざします。

- **企業コミュニケーションunit：**
  1 アカデミアと企業とのコミュニケーションのあるべき姿を考え、実現のために当団体が行うべき有形無形の支援を考えます。
  2 当団体がどういったベネフィットを提供できるかを調査し、企業が当団体の活動に参画しやすくするための環境整備を支援します。
  3 企業と研究者のマッチングサービスの企画・開発をめざします。

- **国内教育プログラムunit：**
  研究者と子供、学生、保護者や社会人を繋ぐ教育のコンテンツやイベントの提供します。

活動実績

シチズンサイエンスでは、すでに精力的に活動されている組織と組んでみて、外部向けイベントに向けて動いてます。企業コミュニケーションでは、科学関係の経営者をお呼びして、何がJAASでできるのか勉強会もかねた懇親会「SciBiz（サイビズ）」を4回開きました。「属性の異なる人々が議論すると新しいことが生まれそう」「それを仕組み化できたら、JAAS流オープンイノベーション」「シーズの目利きができる人材育成プログラムや資格制度も開発できるかも」などの意見がでました。教育プログラムは、九州大との連携をして、研究者が社会と連携するうえで必要な能力を養うためのオンライン講座を３回シリーズで開催しました。初年度だからこそ、内部の連携を中心に深めた年でした。



リサーチWG

JAASの持つ集合知を可視化し、科学振興に貢献します。

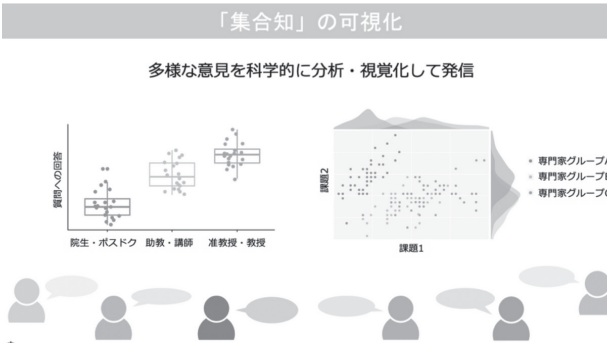
目的

リサーチWGの目的は、社会で問題となっている課題や当会の委員が問題意識を持つ様々な課題を調査対象とし、JAASの使命を達成するための調査活動などを統括し、調査テーマの募集、実施、結果の公表を行うことです。

調査対象となる可能性のあるものとして、科学関係者のキャリアパスやワークライフバランス、科学者とそれを取り巻く社会についての意識などのほか、各国の研究・教育行政、コロナ禍におけるリモート授業の実態などがあります。これらを通して、JAASとしての集合知を可視化していく活動を進めます。

組織構成

リサーチWGでは、ユニット活動は行われておらず、WGとして活動を行ってきました。ユニットの設置も含め、WGのメンバーのみならず、活動の提案を随時募集しています。



活動実績

【集合知の可視化】

当会の会員や科学コミュニティのメンバーの意見・意思などを集約し、提言のような一つにまとめる形式だけでなく、多様な意見・意思を科学的に分析・視覚化し、情報として発信することを検討しています。科学的にもはっきりとした答えの出ていない問題に対して、様々な専門分野の多様な視点からの意見をその違いが分かるように可視化することを想定しています。また、日本の科学をとりまく研究環境などについて、これまで十分に可視化されていなかった学生や若手研究者なども含めた方々の声や実態を「見える化」して政策提案に反映していくことも検討しています。

【新型コロナウイルス関連についてのアンケート調査】

試験的な試みとして、日本版AAASの賛同者・委員の方々に、新型コロナウイルス（新型コロナ）に関するアンケートを行いました。809名にアンケート依頼のメールを送り、270件の有効回答を得て、「集合知」の可視化を試みました。
詳細は下記報告書をご覧ください。
https://jaas.group/survey-covid19/

【「10兆円規模の大学ファンド」などについての提言関連のアンケート調査】

研究環境改善WGより、「10兆円規模の大学ファンド」と地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージの使途についての提言が発出されましたが、これに関連して「「10兆円規模の大学ファンドと、それに対する提言案についてのアンケート」が実施され結果のまとめが報告されています。このアンケートの実施にも、その結果の取りまとめにも、リサーチWGで検討・議論している「集合知の可視化」の考え方や方法が活用されています。

広報・アウトリーチWG

JAASの会員が一生懸命取り組んだ活動を届けます。日本にも、世界にも。

目的

広報・アウトリーチWGでは、公式情報を発信する広報活動を通して、JAASの存在を社会に周知し、認知度の向上を目指します。活動をともにする会員や応援してくださる方々を増やすことで、科学振興への貢献につなげます。アウトリーチ活動では、JAAS内外の垣根を超えて、科学に関わる多様な人々との対話や相互理解を深めるコミュニケーションを実践する機会を提供します。

これらの活動を積極的に推進する4つのunitが、日本の科学を元気にします！



広報の主役である公式webサイト

組織構成

- **国際関係unit**：
  多様な国籍や文化圏の人々が科学の魅力を体感できる環境をつくります。
- **コンテンツ制作unit**：
  さまざまなコンテンツを用いて科学に関わる人たちと対話していきます。
- **組織内広報unit**：
  組織内の情報共有を支援し、円滑な組織内交流を促します。
- **メディア対応unit**：
  JAASについて周知するため・科学振興のための広報活動を行います。

活動実績

具体的な広報活動として、公式webサイト、Twitter、メルマガなど色々なツールを使って、日本版AAAS設立準備委員会やJAASについての情報発信を進めてきました。Webサイトには、組織概要や入会案内、JAAS主催のイベント案内、会員からの情報提供などを掲載してきました。Twitterでは最新情報を速やかに配信し、メルマガでは会員向けにニュースやイベント案内などを毎月お送りしています。

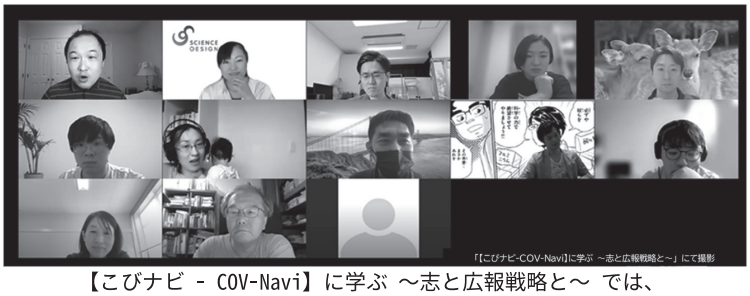
アウトリーチ活動では、メンバー内外に向けて様々なイベントを開催してきました（下表）。

2021年度は日本版AAAS設立準備委員会の組織名での活動が多かったですが、2022年度はJAASとしての活動を積極的に展開する予定です。



最新情報は公式twitterでチェック！

月	イベント名	内容
6月	【こびナビ - COV-Navi】に学ぶ ～志と広報戦略と～	新型コロナウイルス感染症に関する情報発信をしているこびナビの担当者を講師に迎え、広報戦略の勉強会を開催しました。
7月	EuroScienceへのヒアリング	ヨーロッパの科学振興組織であるEuroScienceの事務局長らと意見交換を行いました。
7月	委員長ラジオ	委員長からメンバーに向けて、組織の活動やJAAS設立への進捗状況などを説明しました。
9月	職業講話	中学生を対象に、病理医の仕事内容や社会的意義、やりがいについて紹介しました。



【こびナビ - COV-Navi】に学ぶ ～志と広報戦略と～ では、
多くのメンバーにとって広報の大切さを学ぶよい機会となりました。


職業講話では、医師であるメンバー（左）がオンラインのスタイルで公立中学校にてアウトリーチ活動を行いました。生徒たちは1人1人タブレットで、病理組織の画像を使い、病理医の職業体験を行うことできました（右）。

総合ＷＧ

縁の下の力持ち！

会員１人１人のため、会の円滑な運営のため、痒い所に手が届く「孫の手活動」

目的

総合WGは、会員１人１人が満足のいく活動ができるように、会の運営が円滑に進むように、縁の下の力持ちとしての活動に取り組んでいます。

会員同士の何気ない交流を促進する、自分達の興味を発信・共有する場を提供することで、既存のプロジェクトをより良いものにしたり、新たな取り組みへのきっかけ作りになることを期待しています。

また、会全体の情報や企画を整理することで、透明性や公平性を担保しながら、円滑な運営のサポートを目指しています。

組織構成

- **unit1 委員間交流イベント：**
  委員のための交流イベントを運営しています。
- **unit2 ニーズ・専門性の把握：**
  委員の皆さんからのご意見を集約し、次のプロジェクトに繋げるための提案を行います。
- **unit3 情報・データ管理：**
  会内での情報やデータを記録・整理し、透明性・公平性のある運営をサポートします。
- **unit4 プロジェクト管理：**
  新規提案の企画や進行中の企画を把握し、良い方向に進められるように一緒に考えます。

活動実績

数	開催日	曜日	時間	テーマ
1	2021/4/18	日	9:00~10:00	フリートーク
2	2021/4/28	水	20:00~21:00	フリートーク
3	2021/5/2	日	9:00~10:00	フリートーク
4	2021/5/12	水	20:00~21:00	フリートーク
5	2021/5/16	日	9:00~10:00	環境カフェ形式の対話
6	2021/5/26	水	20:00~21:00	日本版AAAS設立趣意書の検討
7	2021/5/30	日	9:00~10:00	フリートーク（設立趣旨書をテーマにした対話）
8	2021/6/9	水	20:00~21:00	フリートーク
9	2021/6/13	日	9:00~10:00	フリートーク
0	2021/6/23	水	20:00~21:00	科学教育
1	2021/6/27	日	9:00~10:00	よく回る組織運用
2	2021/7/11	日	9:00~10:00	「対話と協働」による科学の振興について
3	2021/7/14	水	20:00~21:00	研究キャリアパスにまつわる疑問・不安・要望
4	2021/7/25	日	9:00~10:00	フリートーク
5	2021/7/28	水	20:00~21:00	フリートーク
6	2021/8/1	日	9:00~10:00	ガンダムの世界観を通した現実世界の地球・宇宙の未来とは？　ガンダムオープンイノベーション申請を目指して
7	2021/8/18	水	20:00~21:00	マイクロ波聴覚効果とは何か？分野間での認識の違いはどこにあるのか？
8	2021/8/25	水	20:00~21:00	小学生の理科教育について
9	2021/8/29	日	9:00~10:00	フリートーク
0	2021/9/12	日	9:00~10:00	研究者メンター事業の紹介とビジネスモデル検討会
1	2021/9/15	水	20:00~21:00	科学教育の格差と分断を考える
2	2021/9/26	日	9:00~10:00	組織外活動マニュアルの検討
3	2021/9/29	水	20:00~21:00	フリートーク
4	2021/10/17	日	9:00~10:00	「日本の科学をもっと元気に！」を可視化しよう
5	2021/10/20	水	20:00~21:00	SNS、特にTwitterを使った科学の対話ーその可能性と問題点
6	2021/10/27	水	20:00~21:30	大阪・関西万博、特にTeamExpo2025への参加について
7	2021/10/31	日	9:00~10:00	フリートーク（地学）
8	2021/11/7	日	9:00~10:00	国内の研究開発予算分析のJAAS活動の提案
9	2021/11/10	水	20:00~21:00	人文社会系ユニット企画　異分野交流会について
0	2021/11/17	水	20:00~21:00	日本の大学のFD活動について
1	2021/11/24	水	20:00~21:00	大学改革方向性検討グループによる企画（仮）
2	2021/12/1	水	20:00~21:00	大学改革方向性検討②「世界と伍する大学」の今後
3	2021/12/12	日	9:00~10:00	webアクセシビリティを考えてみませんか？
4	2021/12/15	水	20:00~21:00	「JAAS出版会（仮称）」構想の提案
5	2021/12/19	日	9:00~10:00	アドボカシーWG設置提案
6	2022/1/19	水	20:00~21:00	科学教育と研究のエクセレンスを考えるー科学者の珠玉の研究名言に学ぶ
7	2022/1/30	日	9:00~10:00	対話イベント「環境カフェ」と新たな「対話カフェ」の継続開催について
8	2022/2/27	日	9:00~10:00	AAASの「SCIENCE」ニュース対話会
9	2022/3/13	日	9:00~10:00	JAAS「環境カフェ方式」対話イベント開催に向けての検討
0	2022/3/16	水	21:00~22:00	JAASにおける出版の構想を考える会②

委員間交流イベントの開催

委員同士の交流促進の場として定期的に開催しています。
イベントでは、ご自身の専門などを紹介・共有したい、新しい企画について他の人の意見も聞いてみたい、同じ興味を持つ人を集めたいなど、それぞれの目的でテーマを設けて開催する回と、特にテーマを決めずにその時の参加者同士の関心のある内容についてフリートークをする回があります。

延べ参加人数

450 名

WGの垣根を越えて参加者同士が交流をする機会になったり、新規プロジェクトの立ち上げで参加者を募ったり、企画を練り上げる場としても活用されています。

その他の活動

意見交換会の実施

「学際研究」に関する対話

京都大学の宮野公樹さんをお招きして「学際研究」について対話しました。参加者は7つのグループに分かれ、それぞれが発表を聴いて感じたことなどについて、１時間にわたり対話しました。

・学際研究において何が起こっているかをあらためて認識できた。他の分野・立場の人たちと対話・協同していくうえで言葉選び・言葉の意味の共有が必要であると感じた。
・学際研究とはどのようなものか、どのような問題があるかを知ることができ、異分野間のコミュニケーションの重要性が感じられた。
・問いは、誰が持ってもいいし、誰が発信してもいい。





委員間交流イベント
10 月 17 日 (日)9:00~10:00

みんなで考えよう！ 社会と科学の“ありたい姿”

「科学が元気な状態」を具体化するため、科学史家の隠岐さや香さん（名古屋大学）に100年前の社会と科学の姿を解説していただきました。その解説を聞き、参加者が思い描いた100年後の社会と科学の理想の姿について対話しました。その対話した内容をJAASとして取りまとめ、社会全体で共有し、これからの人類と社会のための対話と協働に繋げていけるようにしました。

人文社会系異文化交流会

様々なバックグラウンドを持つ24名の方にご参加いただき、人文社会系科学をとりまく現状について活発な議論が交わされました。「キャリアパス」や「博士論文・大学院の過ごし方・留学」、「人文社会系の研究の魅力を社会に伝えるには？」というテーマで、それぞれの立場から問題意識を共有しました。



入会・継続案内

JAASでは、日本の科学を元気にするための活動を企画・提案・実行したい方、科学振興のためのイベントや意見交換会などに参加したい方、JAASの趣旨や事業に賛同・共感して支援してくださる方（個人・法人・各種団体）を広く募集しています。

	会員種別と会費		
	正会員 ※2	賛助会員	協賛会員
年会費 ※1	A： 10,000円 B： 4,000円 C： 0円	3,000円/1口 ※口数応相談	50,000円/1口 ※口数応相談
対象	個人	個人	法人/個人

		2022年度　会員資格と特典		
		正会員	賛助会員	協賛会員
資格	総会での議決権	○	ー	ー
	理事・監事の選挙権・被選挙権	○	ー	ー
	WG・UNIT等の活動への参加	○	ー	ー
特典	会員限定コンテンツの配信	○	○	○
	年次報告書の配布	○	○	○
	総会へのオブザーバー参加	ー	○	○
	イベント等での発表	○	ー	ー
	会員限定イベント・交流会への参加	○	ー	○
	広告宣伝料の割引	ー	ー	○

正会員入会　賛助会員入会　協賛会員入会

※1 年会費の有効期間は4月1日から3月31日までです。
年会費は入退会の時期にかかわらず1年分をお申し受けし、会費の月割りや返金はいたしません。
ただし、3月1日から31日に入会手続きをされた方は翌年度扱い（4月1日付）とさせていただきます。

※2 正会員B（年会費4,000円）：18歳以上30歳未満、障害者およびそれに準ずる方。
正会員C（年会費0円）：18歳未満の方。
その他、経済的困窮や病気などで困難を抱えている方は割引を検討しますので、
お問い合わせフォーム（右のQRコード）よりお気軽にご相談ください。

お問い合せ

メディア掲載実績

日本版AAAS設立準備委員会から日本科学振興協会/JAASに至るまでのメディア掲載実績です。
詳しくは、ウェブサイトをご覧ください。



JAAS公式HP

https://jaas.science/

2022.01.19 日本心理学会の「心理学ワールド」誌に宮川剛・研究環境改善ワーキンググループ・リーダーが「日本の科学を元気に！―「日本版AAAS」による社会との対話の試み」と題して寄稿しました。

2021.07.19 THE KYOTO で馬場基彰委員長の研究と本会についての記事が掲載されました。
現象解明 孤高の夢 京大”アナキズム” #7 没頭の衝動 -馬場基彰 特定准教授 ~前編~
現象解明 孤高の夢 京大”アナキズム” #7 没頭の衝動 -馬場基彰 特定准教授 ~後編~

2021.05.04 日本経済新聞「私見卓見」に馬場基彰委員長が「科学振興に向けた官民の対話を」と題して寄稿しました。

2021.04.16 読売新聞朝刊の「なるほど科学＆医療」ページにて、「日本版AAASに期待」と題して当会の活動が紹介されました。

2021.03.29 医学会新聞に宮川剛委員が「日本の科学を元気に！ 『日本版AAAS』設立へ」と題して寄稿しました。

2021.03.04 毎日新聞にて、「日本版ＡＡＡＳ 設立目指す若手研究者ら 研究力低下に危機感／科学を社会のために」と題して当会の紹介記事が掲載されました。

2021.02.28 日本経済新聞にて、「研究戦略、データと現場の声 活用手探り」と題して当会の紹介記事が掲載されました。

2021.02.28 CBCラジオ番組「燃えよ！研究の志士たち」に小野悠委員長が出演しました。

2021.02.19 日刊工業新聞電子版にて、「社説／日本版ＡＡＡＳ設立 科学の多様性広げる議論の場に」と題して当会の紹介記事が掲載されました。

2021.02.15 JSTのJIPSTIにて、「日本版AAAS設立準備委員会、JAAS設立のための委員会の発足を発表」と題して当会の紹介記事が掲載されました。

2021.02.15 「週刊 文教ニュース」にて、『NPO法人「日本科学振興協会』設立に向けた準備委員会の発足と活動内容についての紹介記事が掲載されました。

2021.02.09 ラジオ番組「OH! HAPPY MORNING」（JFN）に小野悠委員長が出演しました。

2021.02.06 読売新聞にて、「若手研究者ら、科学普及のＮＰＯ法人設立へ…注目論文減少や理科離れに危機感」と題して当会の紹介記事が掲載されました。

2021.02.05 科学新聞にて、「『対話通じて科学技術振興』日本版AAAS設立準備委発足」と題して当会の紹介記事が一面に掲載されました。

2021.02.02 中日新聞にて、「日本版の科学振興団体が６月にも発足へ」と題して当会の紹介記事が掲載されました。

2021.02.01 M3にて、「『日本の科学をもっと元気に！』、日本版AAAS 設立準備委員会発足 若手研究者立ち上がる、6月の設立目指す」と題して当会の紹介記事が掲載されました。

2021.02.01 朝日新聞にて、「『日本の科学を元気にする普及団体を』若手らが設立へ」と題して当会の紹介記事が掲載されました。

2021.02.01 日刊興業新聞にて、「日本版ＡＡＡＳ、協会設立へ準備委発足 対話通じ科学振興」と題して当会の紹介記事が掲載されました。

2021.02.01 毎日新聞にて、「日本の科学を元気に！『日本版AAAS』にかける若手研究者の思い」と題して当会の紹介記事が掲載されました。



団体概要

団体名	特定非営利活動法人（NPO法人）日本科学振興協会
設立日	2022年2月22日
事業内容	科学の振興に関する事業
役員	代表理事　　小野悠　馬場基彰
所在地	〒101-0003　東京都千代田区一ツ橋二丁目4番4号 一ツ橋別館4階　株式会社エー・イー企画 内
連絡先	TEL／FAX　03（3230）2744 ／03（3230）2479 URL　https://jaas.science/ E-mail　info@jaas.science

スポンサー

2022年5月27日現在

ダイヤモンドスポンサー

Remeet REMOTE × MEETING

Srust

Deloitte. デロイト トーマツ

TEL TOKYO ELECTRON

GLOBAL LEARNING CENTER

プラチナスポンサー

ONLINE CONFO

editage publish & flourish 20 years

Cross Marketing

BIO IMPACT

ネオサポ NEXT ALL Support of Researchers

RKHD group ライカイ MHCリユースサービス ワールドインテックRD

ゴールドスポンサー

Air Liquide

Gleam

The Jackson Laboratory

文部科学省 学術変革領域研究 学術研究支援基盤形成
生命科学連携推進協議会

理系漫画制作室 SCIENCE MANGA STUDIO

USACO PROGRESSIVE CHANGE IS OUR WAY OF LIFE

シルバースポンサー

株式会社エウサピア

ブロンズスポンサー

株式会社Splink　バイオリサーチセンター株式会社　フナコシ株式会社
有限会社メルクエスト　株式会社 羊土社

共催セミナー

藤田医科大学 FUJITA HEALTH UNIVERSITY

WILEY

ISRAEL 70

JST 科学技術振興機構 Japan Science and Technology Agency

editage publish & flourish 20 years

KYUSHU UNIVERSITY

SPRINGER NATURE

Deloitte. デロイト トーマツ

GLOBAL LEARNING CENTER

JST-RISTEX

広告協賛

カクタス・コミュニケーションズ株式会社　東京エレクトロン株式会社
公益財団法人　光科学技術研究振興財団　株式会社ベネッセコーポレーション　株式会社薬研社

企業展示

小原医科産業株式会社

寄付

株式会社カイルアサービス　三菱電機株式会社

新型コロナウイルス感染症感染対策について

JAAS第1回総会・キックオフミーティングでは、参加者、登壇者、主催者、スタッフ、すべての関係者が安全かつ安心して参加できることを目指し、以下の対策を実施します。
ご来場の皆様には、ご協力をいただきますようお願いいたします。

大会運営の基本方針

本大会は、東京都が定めるイベント等の開催制限に従い運営を行います。
TOKYOワクション

来場される方へのお願い

体調が優れない場合はご来場をお控えください

当日に発熱や咳、咽頭痛、倦怠感、呼吸困難がある場合はご来場をお控えください。
会場にて万が一体調が悪くなった場合は、下記センターに電話をして指示を仰いでください。

東京都発熱相談センター
TEL: 03-5320-4592（24時間対応）

ソーシャルディスタンス確保のお願い

密閉、密集、密接を避けてお互いの距離を確保し、常にマスクを着用してください。
飲食の際は会話をお控えください。

大会会場での対策

以下の対策にご協力くださいますようお願いいたします。



感染防止の為、会場内では必ずマスクのご着用をお願いします。
マスクをしていない方にはご退場いただく場合があります。ご了承ください。



施設入口や各講演会場の入口に消毒用アルコールを設置します。
入退場の際など、こまめにお使いください。



会場内ではソーシャルディスタンスを保つため、できる限り間を空けてご着席ください。



会場内は換気を行います。
※空調設備による常時換気、扉の開放

スマートフォンやタブレットをお持ちの方は、ぜひ以下のアプリをご活用ください。
新型コロナウイルス接触確認アプリ「COCOA」

（App Store）　（Google Play）

メモ



光とともに

For Opto-Science and Technology

「光」の未知領域に挑む研究を多面的に支援し、
人類の未来に欠かせない光科学技術の発展に貢献しています。

● 当財団の公募内容

T. HIRUMA PHOTONICS AWARD
畫馬輝夫 光科学賞

光科学技術の可能性への先見性と
人類社会の発展に対する貢献を受け継ぐ

授賞内容：賞状楯・賞牌・副賞500万円

RESEARCH GRANT PROGRAM
研究助成事業

光科学および光科学技術の未来を拓く、
先鋭かつ独創的な研究を後押し

研究助成額：5,000万円／年度（継続助成を含む）

SCHOLARSHIP PROGRAM
奨学金事業

博士後期課程への進学を支援し
光科学技術の未来を担う人材を育成

光科学技術分野の博士後期課程学生へ月額15万円を給付

公益財団法人
光科学技術研究振興財団
Research Foundation for Opto-Science and Technology

〒430-0926 静岡県浜松市中区砂山町325番地の6

https://www.refost-hq.jp/

「研究機器オンライン」「受託オンライン」



気になるワードで検索!



製品情報の充実
随時、追加・更新を
行っております。





研究機器オンラインの特徴

- 研究用途に合わせた検索もラクラク!
- 予算申請の金額に合わせた検索もラクラク!
- 予算申請に便利
  ‥ 指定範囲の金額で検索が可能に!
- あのメーカーの製品を
  ‥ フリーワード検索や
  メーカーの絞り込み検索も可能!

HPトップバナーから

研究機器オンライン トップへ!　受託オンライン トップへ!

受託オンラインの特徴

- 遺伝子発現解析や抗体作製から
  病理標本作製まで幅広い受託サービスを掲載
- 研究用途から受託サービス検索
  ‥ 遺伝子工学、シーケンス解析、タンパク質工学などの
  カテゴリー検索!
- キャンペーン情報の確認も可能
- あのメーカーの受託サービスを
  ‥ フリーワード検索やメーカーの絞り込み検索も可能!

株式会社 **薬 研 社**
YAKUKENSHA CO., LTD.

**薬研社の研究機器オンライン・受託オンラインは、
PC、スマートフォンやタブレット端末からアクセス！**

WEBサイト
随時更新中

https://www.yakukensha.co.jp

薬研社　検索

薬研社ホームページ